

富士山大規模噴火と都民の意識
－2022年東京都民調査から－

Large-scale Ashfall in the Tokyo Metropolitan Area and Attitudes toward Disaster Prevention
: From the 2022 Tokyo Metropolitan Survey of Citizens

関谷直也 Naoya SEKIYA 安本真也 Shinya YASUMOTO 富澤周 Shu TOMIZAWA
葛西優香 Yuka KASAI 内田充紀 Mitsuki UCHIDA

目 次

1. はじめに
 2. 調査概要
 3. 富士山噴火への関心、不安、対策の必要性の認識
 - 3.1 全般
 - 3.2 東京23区と東京都下の住民の意識
 - 3.3 過去の富士山噴火についての認識
 - 3.4 今後の富士山噴火の可能性についての認識
 4. 富士山噴火についての意識
 - 4.1 富士山大規模噴火時の降灰の程度に関する認識
 - 4.2 富士山大規模噴火時の降灰被害の程度に関する認識
 5. 富士山噴火と避難行動
 - 5.1 富士山噴火直後の行動
 - 5.2 長期的に避難せざるを得なくなった場合の避難行動
 6. 富士山噴火の想定と対策
 - 6.1 富士山噴火の被害想定についての知識と意識
 - 6.2 富士山噴火に関する火山灰対策に関する知識と実態
 - 6.3 富士山噴火を理解する上で必要な用語の認知と情報
 7. おわりに
- 附属資料 単純集計結果（該当部分の抜粋）

キーワード：富士山噴火、大規模降灰、広域避難

執筆分担：

関谷直也 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 1～6

安本真也 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター

富澤 周 東京大学大学院学際情報学府修士課程

葛西優香 東京大学大学院学際情報学府修士課程

内田充紀 東京大学大学院学際情報学府修士課程

1. はじめに

1707年の富士山の宝永噴火においては江戸においても5～10cm程度の降灰があったとされている。だが、富士山噴火が本格的に検討され始めたのは、2000年の低周波地震が観測されて以降である。

2002年から、内閣府（防災）により『富士山ハザードマップ検討委員会』が設置され、富士山のハザードマップ（ドリルマップと可能性マップなど）の基本的な考え方が示された。また、2004年から2005年にかけて、『富士山火山広域防災検討会及び共生ワーキンググループ』（平成16年11月～平成17年7月）が開催され、2006年には、中央防災会議『富士山火山広域防災対策基本方針』（平成18年2月17日）が策定された。

もともと富士山は大きな観光資源であるとともに、その噴火の周期等も不明であることから本格的な検討はなされてこなかったが、現在は、山梨県、静岡県 of 富士山周辺域では、富士山火山防災協議会などを中核として、火砕流、噴石など火山活動に伴う避難等が考えられるようになった。

ただ大規模降灰については、その後、具体的な検討がなされず、本格的に検討が始まったのは、2018年から2020年にかけて、内閣府（防災）「大規模噴火時の広域降灰対策検討ワーキンググループ」からである。この委員会の報告として、富士山噴火を想定した『大規模噴火時の広域降灰対策について一首都圏における降灰の影響と対策～富士山噴火をモデルケースに～』が公表され、さらに、現在、内閣府により富士山噴火に伴う首都圏における広域降灰の検討が進められているところである。

その大規模降灰があった場合、その対応を実施する当事者である住民がどのように反応するかは、調査研究がなされたことはなく、想像の域を出ていない。その規模や範囲にもよるのだが、それらの対応を考える際に、それらは非常に重要であろう。

本調査では、東京都民が、どのように反応するかを分析する。

2. 調査概要

本調査は、東京都民を対象として、地震・水害・火山に関する防災対策、被害想定、意識についての調査である。本調査論文では、この調査のうち、富士山大規模噴火に関わる部分について報告する。

その概要は表 2.1 の通りである。

調査は NTT コムリサーチのインターネットパネルを用いた WEB 調査の手法を用い、設問数の都合上、2 波に分割して行った。対象者は東京都民であり、島しょ部を除いた、23 区、26 市ならびに西多摩郡（瑞穂町・日の出町・檜原村・奥多摩町を合わせた区域）の合計 50 市区町村に対して、性年代均等割付を行った。1 市区町あたり、性別（男女）

×年代（20～60代）の10セルあり、セルごとで10サンプルずつ収集した。その結果、第1波では5,672サンプルが有効回答として得られた（予備サンプルを含む）。ただし、一部の地域については未達の割付がある。その後の第2波では、第1波の回答者に対して調査を行い、第1波の78.9%である、4,478サンプルが有効回答として得られた。なお、パネル調査として実施した訳ではないので、特に断りなく、同一の調査として分析する。これらを本研究の分析対象とする。

表 2.1 調査概要

調査対象	東京都市区ならびに西多摩郡在住者（NTTコムリサーチのパネル）
調査方法	WEB調査
第1波調査	
調査期間	2022年3月4日～28日
有効回答	5,672票（予備サンプル含む）
第2波調査	
調査期間	2022年3月28日～4月21日
有効回答	4,478票（第1波と同一パネル、期間内で可能な限り回収）

なお、調査回答者の概要は、表2.2の通りである。居住地23区内の有効回答率は第1波の92.9%、23区外は86.7%であった。また、性年代均等割付であるが、パネルの特徴が反映され、20代が少なくなっている。なお、主観でこれまでに大きな災害を経験したことがあるか問うた結果、「地震で避難をしたことがある」と回答した人は全体の8.0%とそれほど多くなく、「避難をしていないが経験したことがある」と回答した人は全体の47.5%であった。

なお、23区内と23区外を基本単位として分析し、基本的にはすべて χ^2 検定を実施し、有意差があった項目のみ、記号を付した。しかしながら、有意差のある項目がすくなくかったため、特段、特徴的な有意差のある項目以外は指摘しない（ χ^2 検定 ***： $p<.001$ 、**： $p<.01$ 、*： $p<.05$ 無印：有意差なし）。

表 2.2 調査対象者の概要

		居住地23区内 (n=2138)	居住地23区外 (n=2340)	合計 (N=4478)
性別	男性	49.3%	48.7%	49.0%
	女性	50.7%	51.3%	51.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%
年代	20代	16.9%	13.7%	15.2%
	30代	19.6%	20.6%	20.1%
	40代	21.2%	21.9%	21.6%
	50代	21.2%	22.5%	21.9%
	60代	21.1%	21.3%	21.2%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%
通勤・ 通学先	23区内	76.5%	27.4%	50.8%
	23区外	1.2%	43.9%	23.5%
	東京都以外	3.6%	4.4%	4.0%
	通勤も通学もしていない	18.8%	24.3%	21.7%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%

3. 富士山噴火への関心、不安、対策の必要性の認識

3.1 全般

富士山は1707年から噴火しておらず、関東地域では、三宅島、伊豆大島など島嶼部の火山で噴火がある場合があるが、首都圏で大規模な降灰となるような火山災害の影響があったことは近年になく、地震災害、台風などの水害と比べて、関心度は低い（図3.1）。よって当然不安感も低く（図3.2）、対策の必要性を感じる人も少ない（図3.3）

また、その結果とも原因ともいえるが、「テレビのニュースや新聞の報道で目にしますか」との問いに対しても富士山噴火など火山災害はその割合も低く、メディアなどで接する頻度も低いのが実態である（図3.4）。

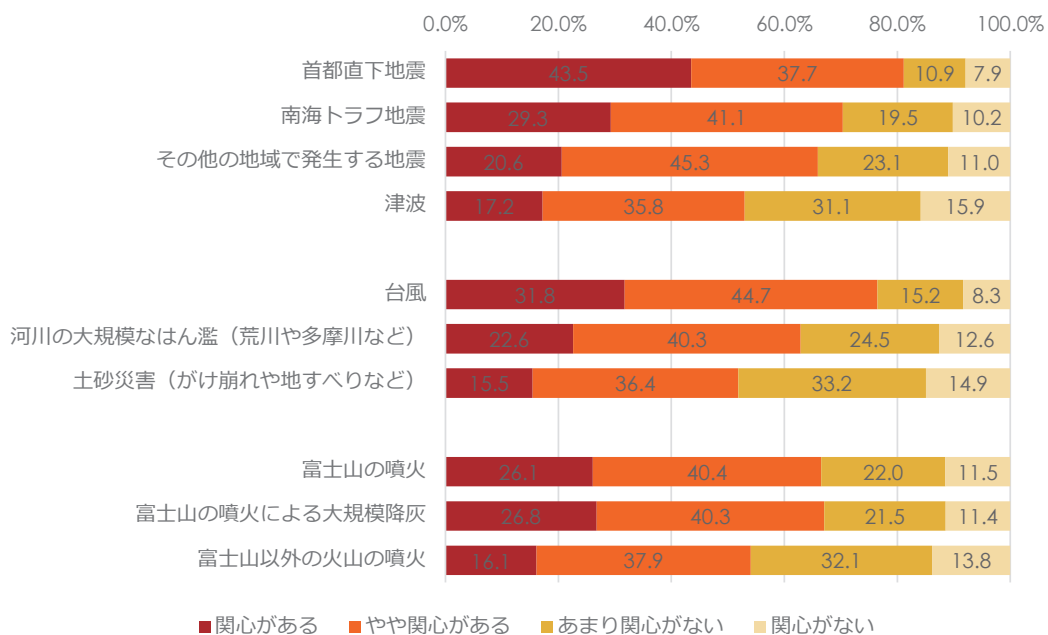


図3.1 富士山噴火や他災害への関心

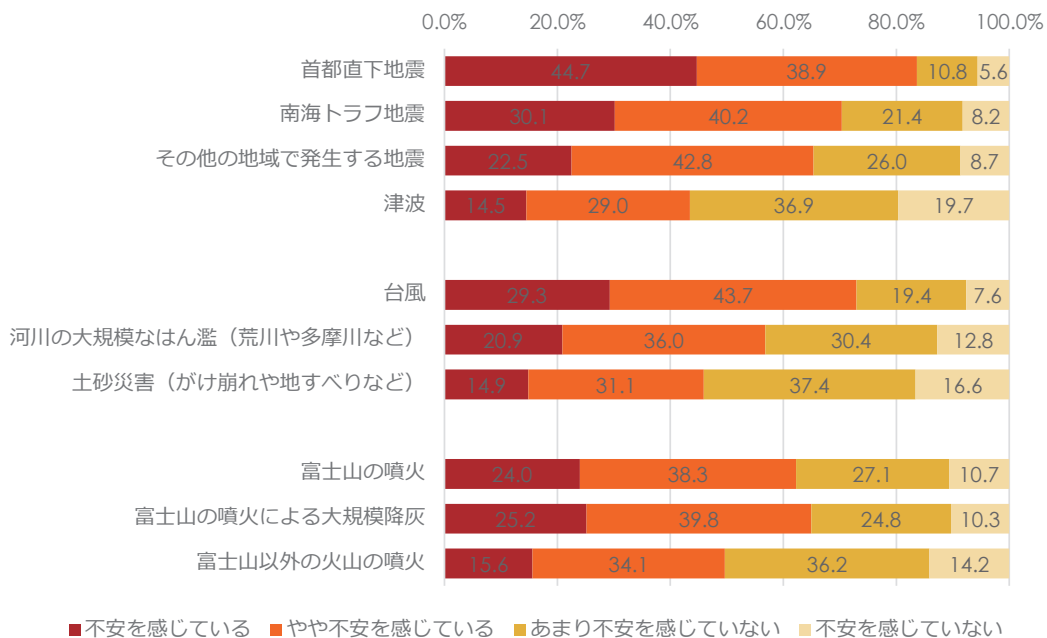


図3.2 富士山噴火や他災害への不安

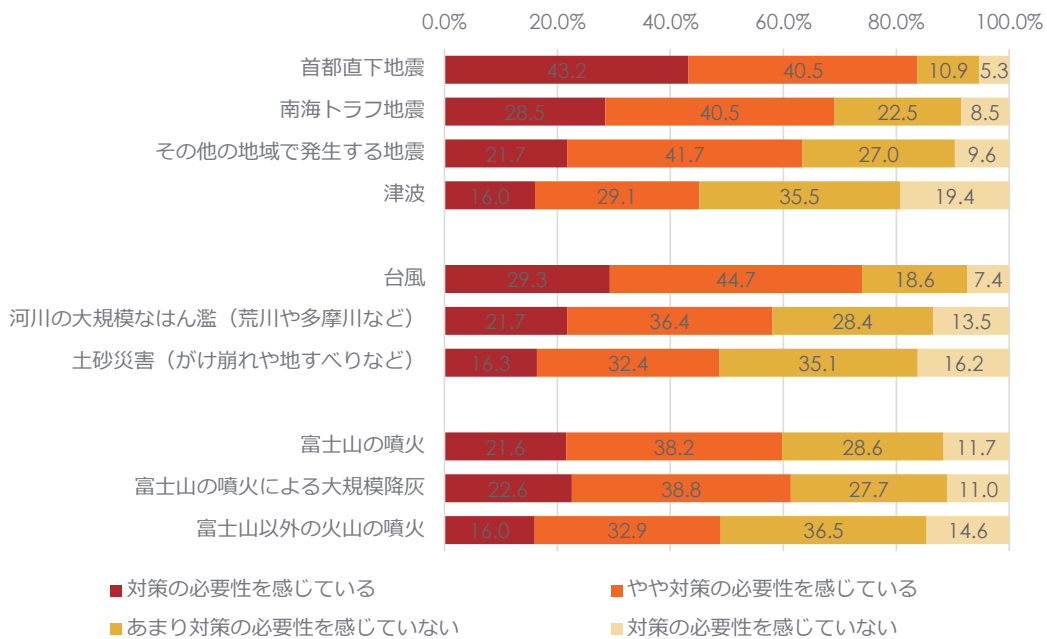


図3.3 富士山噴火や他災害の対策の必要性

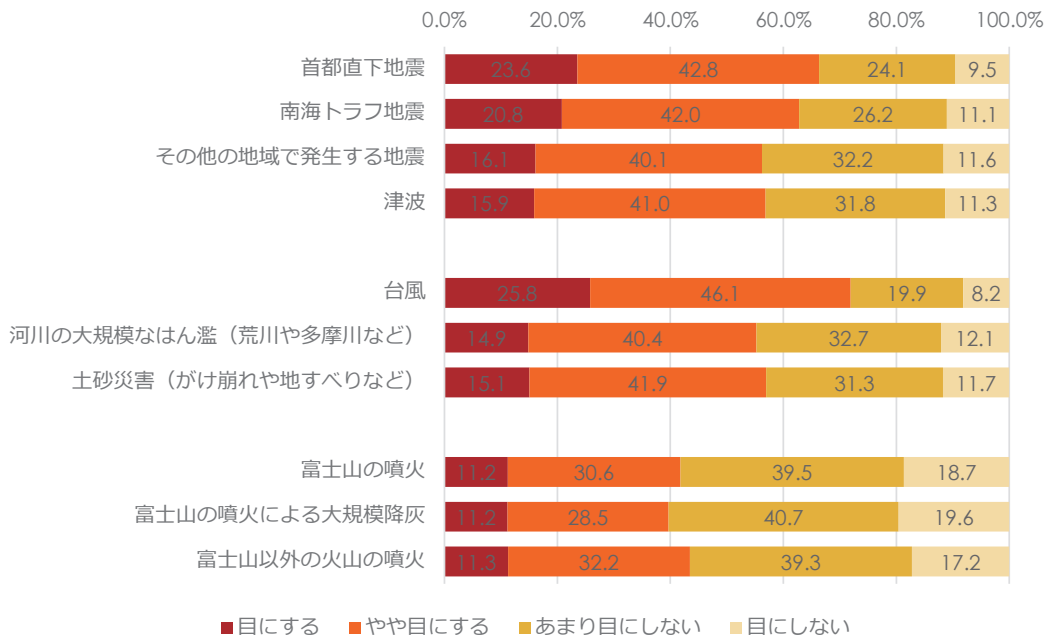


図3.4 富士山噴火や他災害に関する報道での視聴の程度

3.2 東京23区と東京都下の住民の意識

なお、上記項目を、東京23区と東京都下（23区外）の住民に分けて聞いたところ、関心や不安度は、西寄りで富士山に近い都下の方が若干関心や不安感が高かった（図3.5、図3.6）。だが、対策の必要性やメディアなどで情報に接する頻度については差はなかった（図3.7、図3.8）。

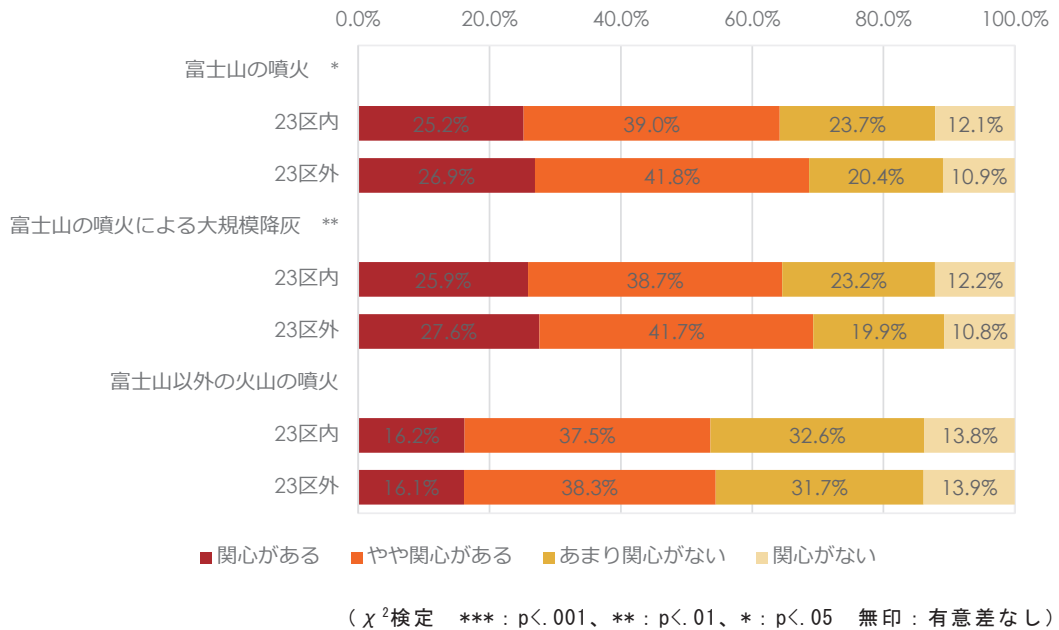


図3.5 富士山噴火や他火山噴火への関心（23区内外別）

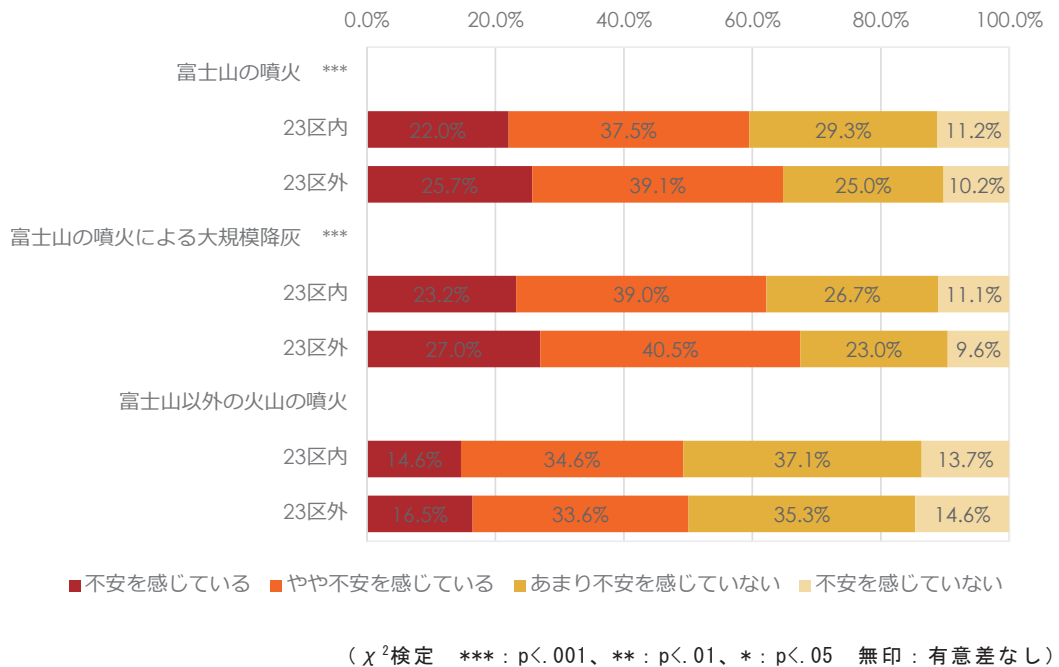
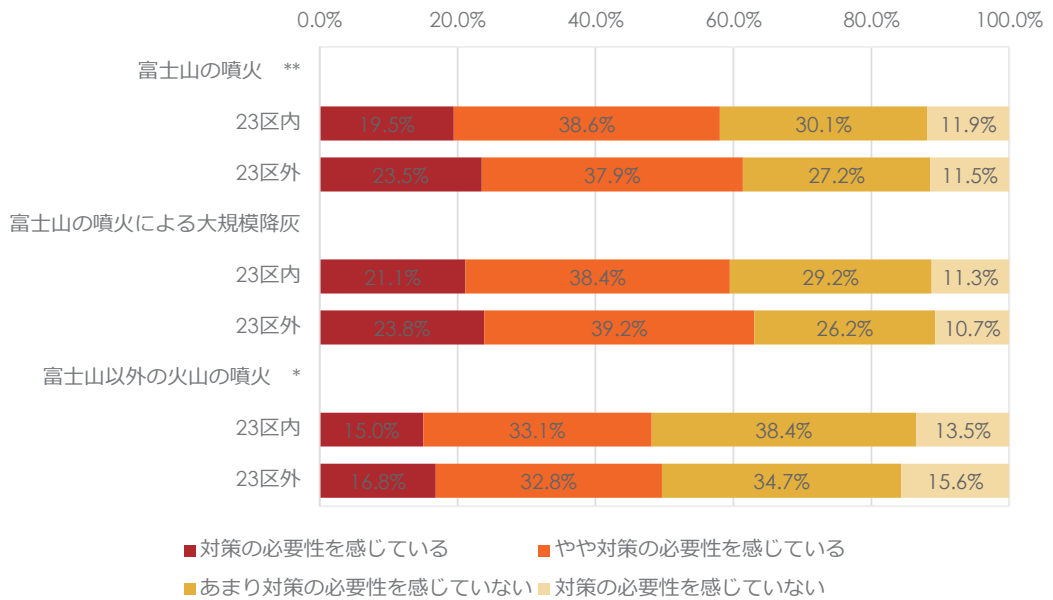
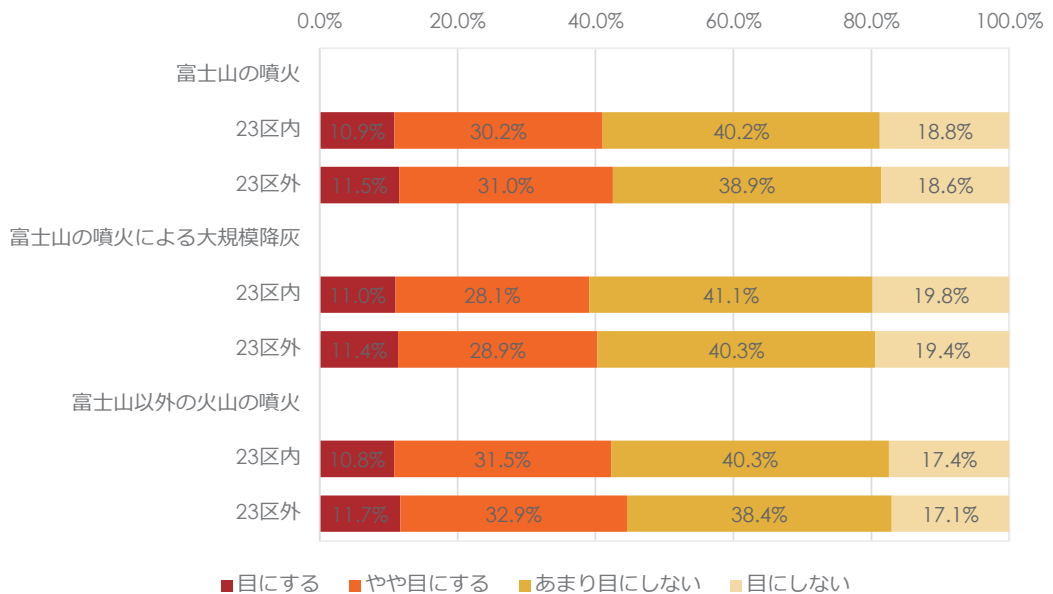


図3.6 富士山噴火や他火山噴火への不安（23区内外別）



(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図3.7 富士山噴火や他火山噴火の対策の必要性（23区内外別）

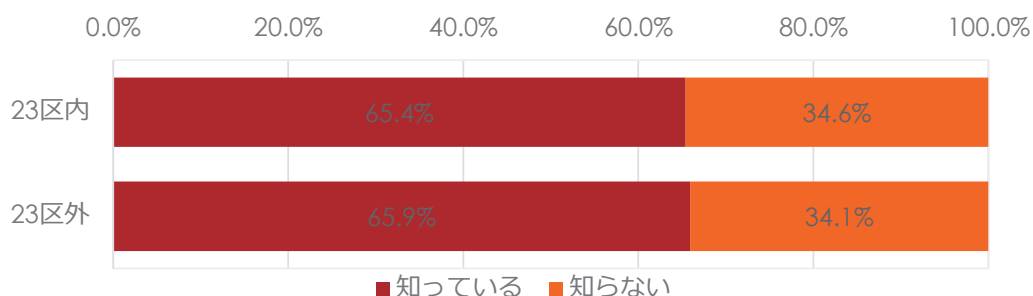


(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図3.8 富士山噴火や他火山噴火に関する報道での視聴の程度（23区内外別）

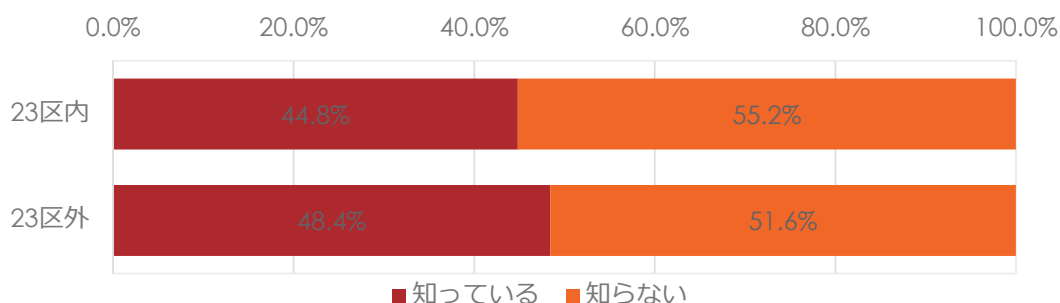
3.3 過去の富士山噴火についての認識

富士山では1707年、江戸においても5～10cm程度の降灰があったとされている噴火があった。いわゆる「宝永噴火」である。もちろん、次の噴火の程度や規模はわからないが、首都圏の大規模降灰の検討はこの「宝永噴火」の規模・程度を前提に議論されている。これに関して「過去、富士山で大規模な噴火があったこと」を知っているか問うたところ、そのこと自体は7割が認知していた（図3.9）。また、「過去、富士山が噴火して、東京近辺で大規模な降灰があったこと」については5割弱の人が認知していた（図3.10）。



(χ^2 検定 ***: p<.001、** : p<.01、* : p<.05 無印 : 有意差なし)

図3.9 過去、富士山で大規模な噴火があったこと（23区内外別）



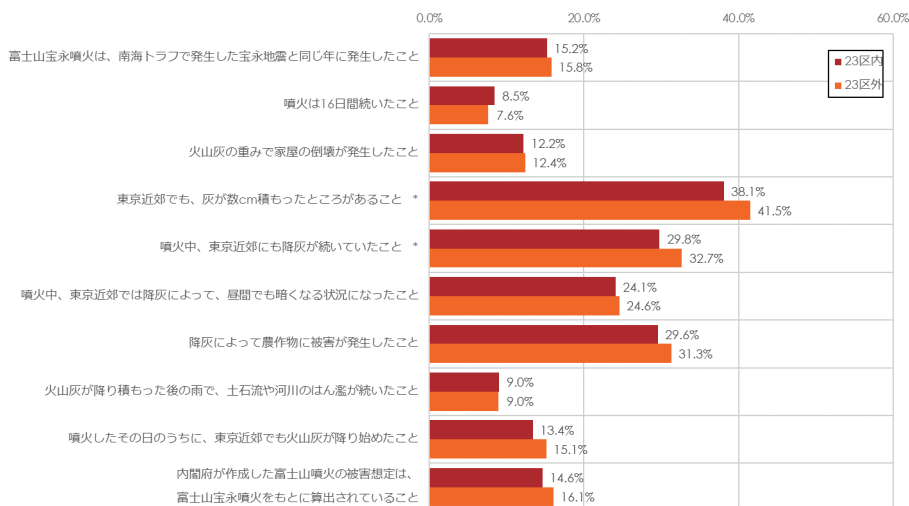
(χ^2 検定 ***: p<.001、** : p<.01、* : p<.05 無印 : 有意差なし)

図3.10 過去、富士山が噴火して東京近辺で大規模な降灰があったこと（23区内外別）

また災害は、その被害の程度をイメージできるかによって、その認識や対策の程度は異なってくるのは当然である。

詳細に聞いたところ（図3.11）、「東京近郊でも、灰が数cm積もったところがあること」（23区内 38.1%：23区外 41.5%）、「噴火中、東京近郊にも降灰が続いていたこと」（29.8%：32.7%）、「噴火中、東京近郊では降灰によって、昼間でも暗くなる状況になったこと」（24.1%：24.6%）、「降灰によって農作物に被害が発生したこと」（29.6%：31.3%）など、降灰に関連する項目は比較的回答率が高かった。なお、「東京近郊でも、灰が数cm積もったところがあること」（38.1%：41.5%）、「噴火中、東京近郊にも降灰が続いていたこと」（38.1%：41.5%）については、富士山に近い都下（23区外）の方が認知度が高かった。

それ以外についての項目はあまり知っている回答した人は多くはない。「富士山宝永噴火は、南海トラフで発生した宝永地震と同じ年に発生したこと」（15.2%：15.8%）、「内閣府が作成した富士山噴火の被害想定は、富士山宝永噴火をもとに算出されていること」（14.6%：16.1%）、「噴火したその日のうちに、東京近郊でも火山灰が降り始めたこと」（13.4%：15.1%）、「火山灰の重みで家屋の倒壊が発生したこと」（12.2%：12.4%）、「火山灰が降り積もった後の雨で、土石流や河川のはん濫が続いたこと」（9.0%：9.0%）、「噴火は16日間続いたこと」（8.5%：7.6%）など、これらを知っていると回答した人は多くはなかった。



(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図3.11 1707年に発生した富士山の噴火（富士山宝永噴火）について知っていること（23区内外別）

3.4 今後の富士山噴火の可能性についての認識

富士山噴火の可能性について、「あなたが生きている間に、富士山が噴火すると思いますか。」と聞いたところ、噴火すると思うと答えた人は1割強、噴火する可能性が高いと思うという人も含めて約半数であった。「富士山が噴火する」「富士山噴火の可能性が高いと思う」と認識している人は約半数程度に過ぎなかった（図3.12）。

「もし、富士山の噴火が起こった場合、あなたが住んでいる地域は、どの程度の被害を受けると考えますか」と聞いたところ、「大きな影響を受けると思う」が4割強、「少し影響を受けると思う」が4割強、「被害はないと思う」が1割強であった（図3.13）。

「もし、富士山の噴火が起こった場合、あなたが住んでいる地域では、どのような現象が起こると思いますか」と聞いたところ、「降灰」が6～7割、「空が灰でおおわれる」が5割弱、「頻繁な地震」が4割強で、おおむね東京の降灰被害の想定は理解されていると見てよい。なお、一方で「噴石」「火砕流」「溶岩流」などと答えている人も一定程度おり、過剰に認識している人も一定程度いることもわかる（図3.14）。

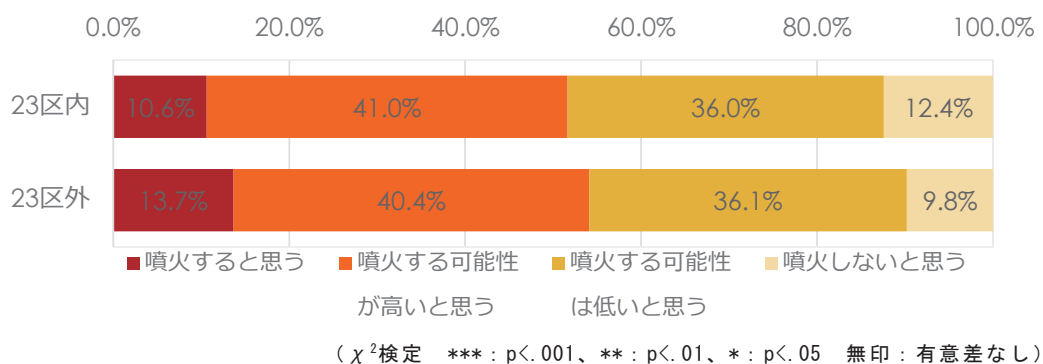


図3.12 あなたが生きている間に、富士山が噴火すると思うか（23区内外別） ***

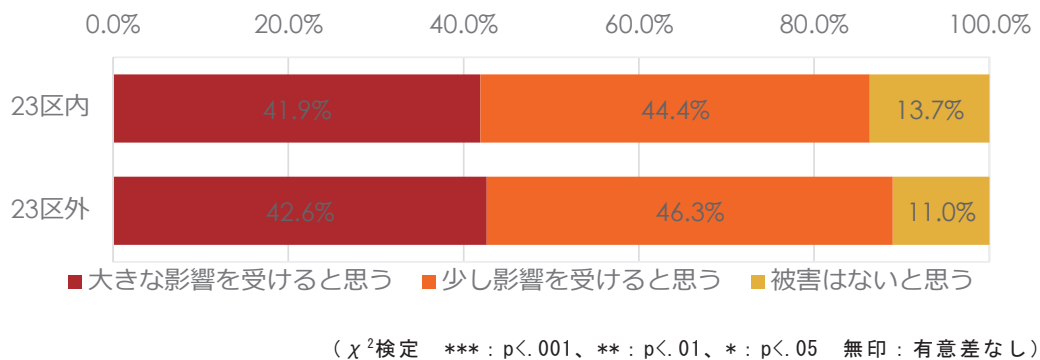
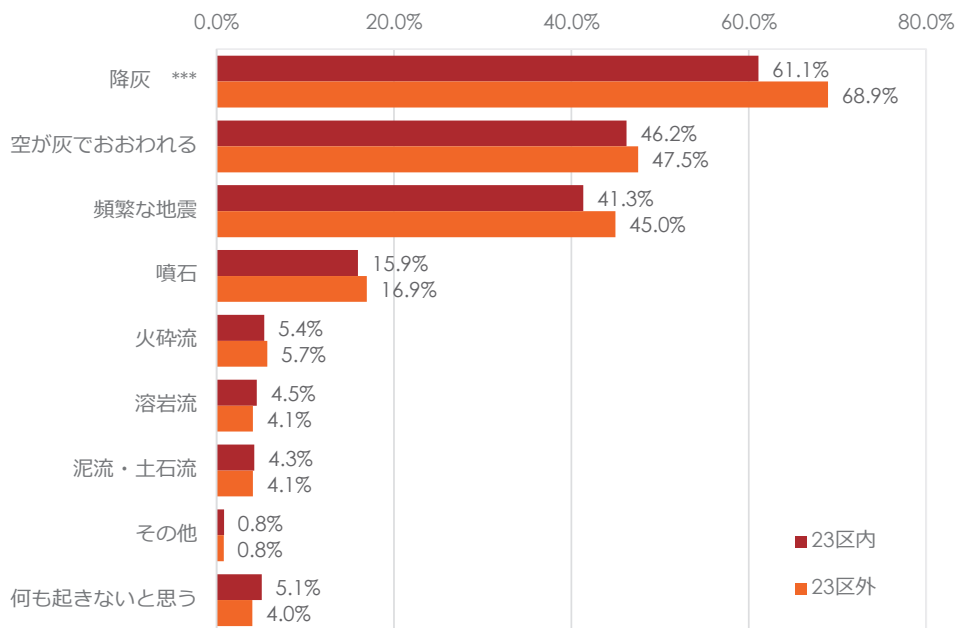


図3.13 富士山噴火時、住んでいる地域はどの程度の被害を受けると思うか（23区内外別）



(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図3.14 富士山噴火時、住んでいる地域ではどのような現象が起こると思うか (23区内外別)

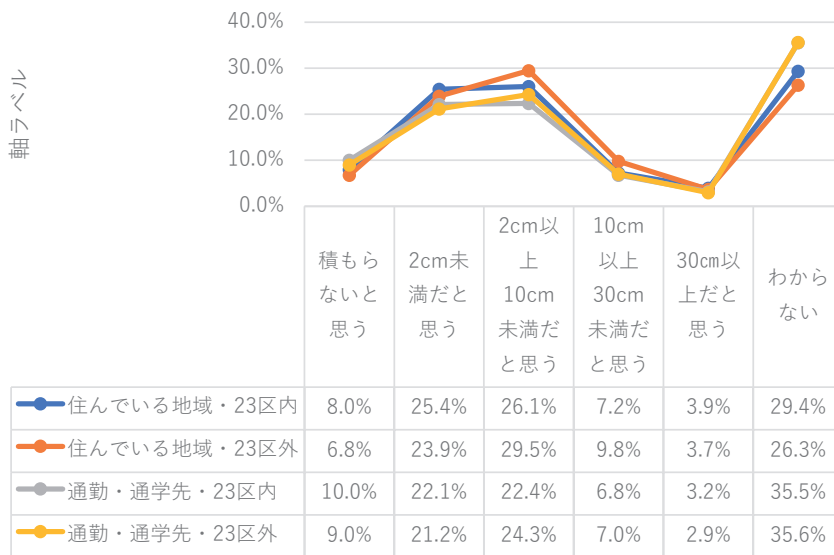
4 富士山大規模降灰についての認識

4.1 富士山大規模噴火時の降灰の程度に関する認識

次に、富士山大規模噴火時の降灰の程度に関する認識について議論する。

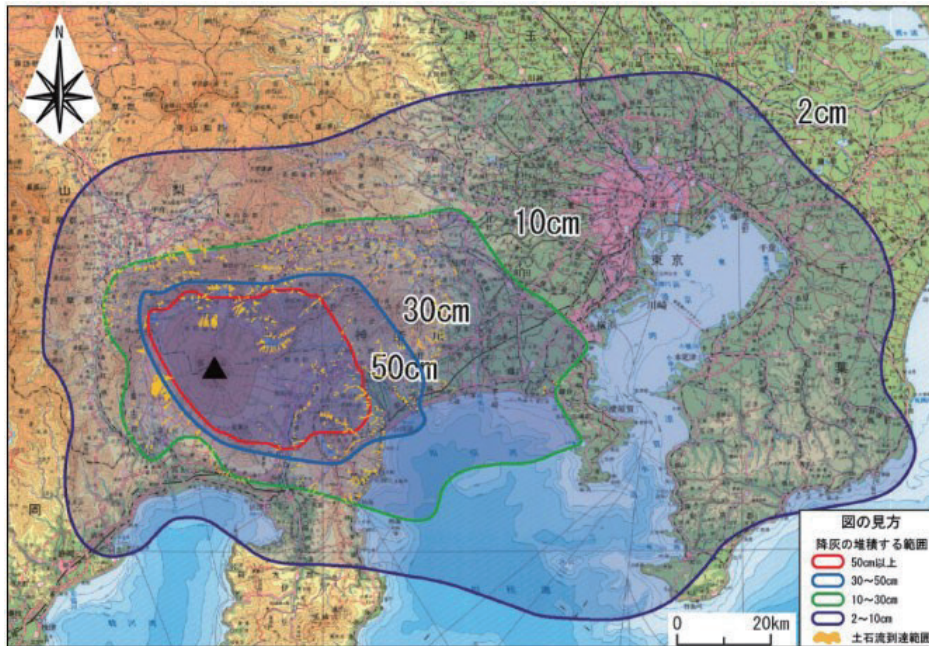
「Q15. もし、富士山の噴火が起こった場合、あなたの住んでいる地域ではどのぐらい火山灰が積もるとお考えですか。」「Q18. もし、富士山の噴火が起こった場合、通勤・通学先ではどのぐらい火山灰が積もるとお考えですか」と問うた(図4.1)。23区内外か、居住地域か通勤先・通学先かによらず、ほぼ同様の回答となった。「わからない」との回答が3割程度で、「2cm未満」「2cm以上～10cm未満」が2割5分程度である。

ただし、これらについては、具体的な根拠、科学的な情報を前提にしていない。現在、住民向けに公表されている最も簡便な富士山噴火について知ろうとするならば、内閣府(防災)によって策定された富士山のハザードマップである。富士山ハザードマップについては議論され、公表されてから約20年程度経過している(図4.2)。この認識についても問うた。



(χ^2 検定 ***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05 無印: 有意差なし)

図4.1 富士山の噴火が起こった際の居住地と通勤・通学先の火山灰の程度について (23区内外別、住んでいる地域/通学・通勤先別)

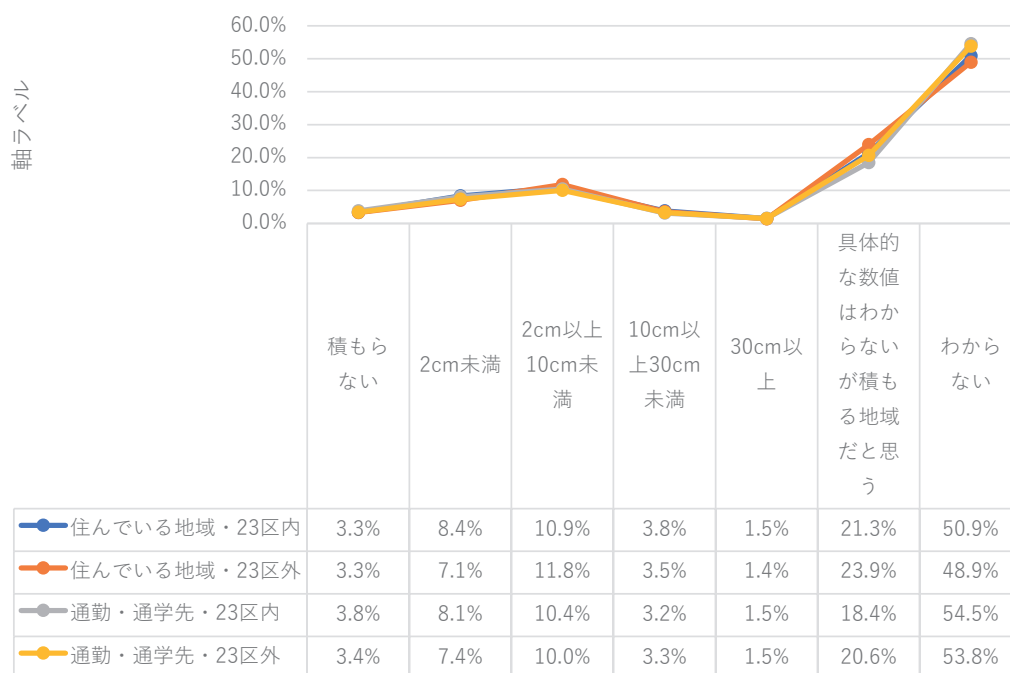


出典：内閣府（防災）

図4.2 富士山ハザードマップに降灰の影響予測範囲（可能性マップ）

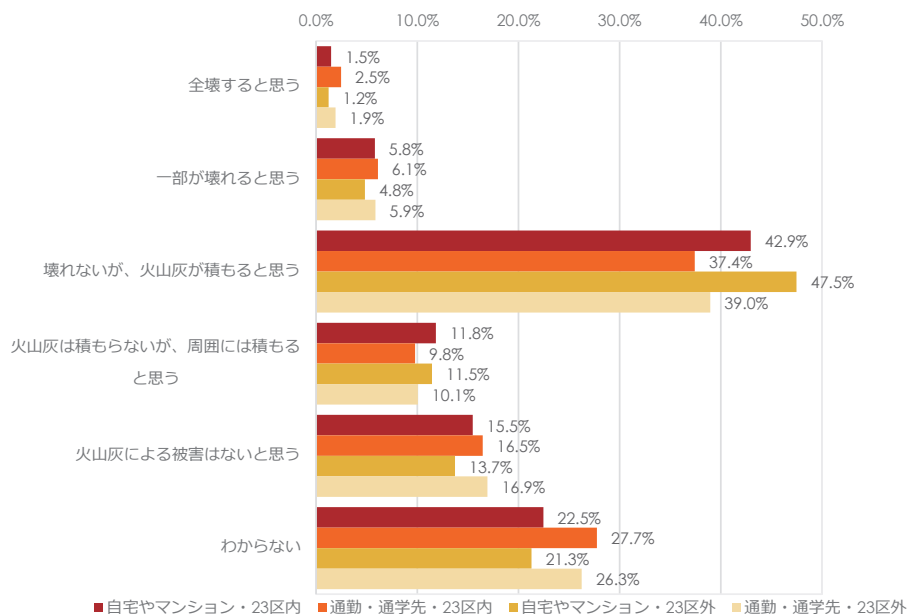
「Q23 あなたが住む地域は、富士山火山防災マップ（ハザードマップ）で火山灰がどの程度積もると想定されていますか。」「Q24 あなたの通勤・通学先の地域は、富士山火山防災マップ（ハザードマップ）で火山灰がどの程度積もると想定されていますか。」と問うたところ、5割程度の人は降灰の程度について「わからない」と答えており、2割程度は、「具体的な数値はわからないが積もる地域だと思う」という程度の認識である。（図4.3）。すなわち、多くの人は想像で、なんとなく「2cm未満」「2cm以上～10cm未満」「具体的な数値はわからないが積もる地域だと思う」と認識していることがわかる。

なお、多くの人は、富士山噴火の被害は（自宅やマンション、通勤先・通学先）「壊れないが、火山灰が積もると思う」「火山灰は積もらないが周囲には積もると思う」「火山灰による被害はないと思う」と答えており、そのような認識をしている。「わからない」と回答している人も多かった（図4.4）。



(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図4.3 富士山ハザードマップにおける居住地域と通勤・通学先の降灰の影響予測の認識 (23区内外別、住んでいる地域/通学・通勤先別)



図注：「火山灰は積もらないが、周囲には積もると思う」は、それぞれ詳細には「自宅やマンションに火山灰は積もらないが、周囲には積もると思う」「通勤・通学先に火山灰は積もらないが、周囲には積もると思う」である

**図4.4 富士山噴火時の、通勤・通学先の火山灰被害の程度
(23区内外別、住んでいる地域/通学・通勤先別)**

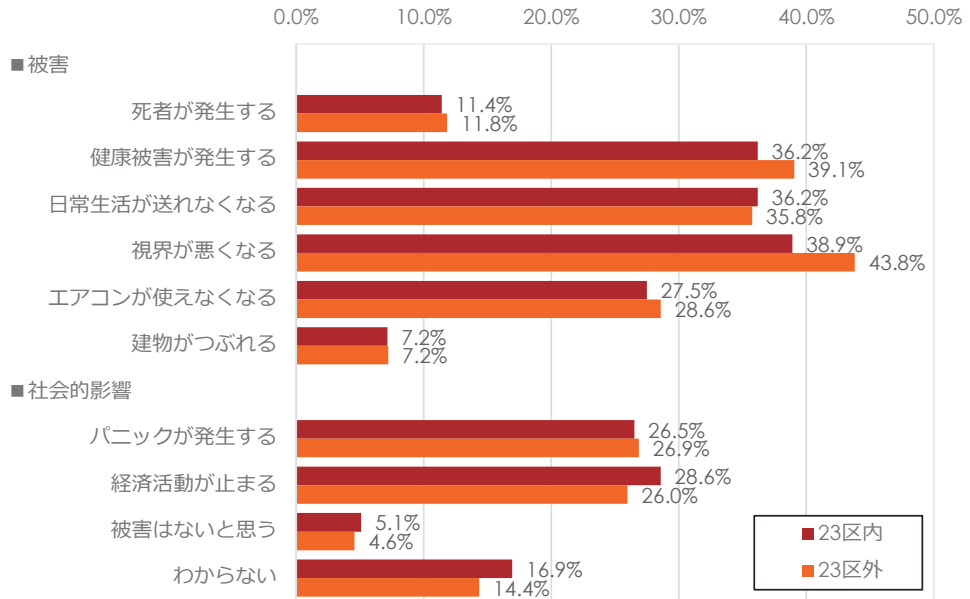
4.4 富士山大規模噴火時の降灰被害の程度に関する認識

次に、富士山大規模噴火の際の降灰被害について聞いた。

健康被害でいうと「死者が発生する」と思っている人は多くはないものの、「健康被害が発生する」「日常生活が送れなくなる」「視界が悪くなる」「エアコンが使えなくなる」ということを認知している人が一定程度いることがわかる。だが、そこまで多数いるというほどではない。「エアコンが使えなくなる」（これは一定程度発生することが妥当と考えられている）という認識も「パニックが起こる」「経済活動が止まる」という極端な認知をしている人数と同程度であることがわかった（図4.5）。

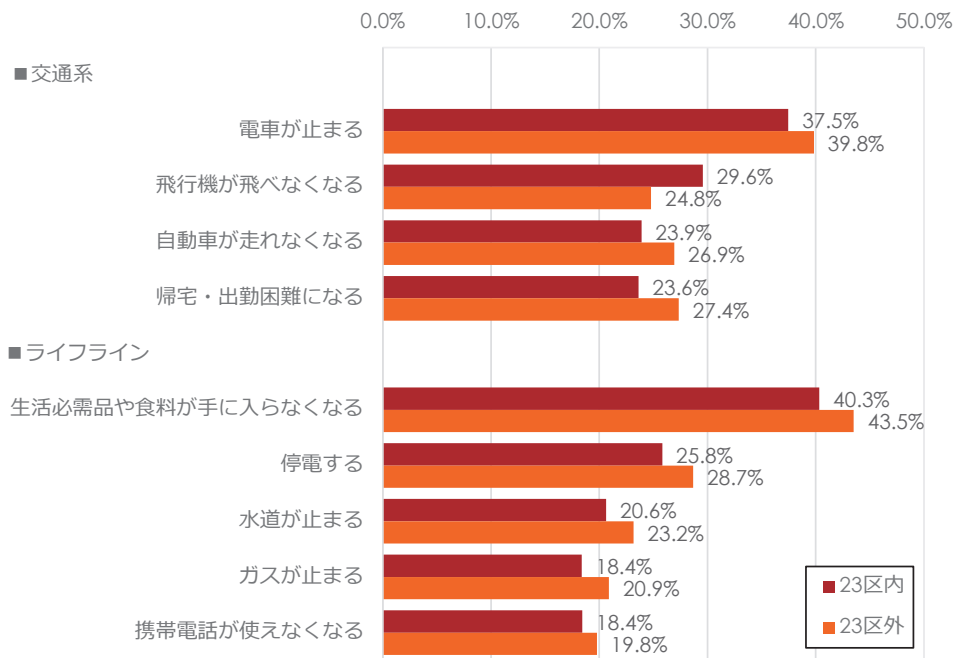
また、交通面やライフラインの被害に関しても、降灰の影響として最も影響が大きいと考えられている「電車が止まる」「飛行機が飛べなくなる」「自動車が走れなくなる」「帰宅・出勤困難になる」という認識を持っている人は4割から3割程度で決して多くはなかった。このことについては啓発が必要であろう。

ライフライン面での被害でいうと、「生活必需品や食料が手に入らなくなる」との認識を持っている人が4割程度おり、多くはないが、これらの回答の中で最も多い。自動車物流などの交通網が止まることにより、必ず起こりうる被害であるので、啓発することが必要であろう。



(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図4.5 富士山噴火時にどのような被害が起こると思うか① (23区内外別)



(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図 4.5 富士山噴火時にどのような被害が起こると思うか② (23区内外別)

一方、具体的な被害になると、どうであろうか。影響が大きいと考えられているのは停電である。碍子からの漏電など実際に被害が起こる可能性が考えられている「停電する」が3割弱と低い一方、実際にはすぐに被害がでるとは考えにくい「水道が止まる」が2割、「ガスが止まる」が2割の回答であった。これらは、正確に火山灰の影響について知識をもって判断しているというよりは、火山灰の影響について多くの人がよくわかっておらず、富士山噴火の影響についても具体的な認識を持っていないことの証左であろう。

次にライフラインについて、「もし、富士山の噴火が起こった場合、自宅周辺の電気・ガス・水道・道路・交通機関などの被害はどのくらいの間、続くと思いますか」と聞いたところ、大きな影響があると考えられる「道路」「鉄道」「バス」とそれ以外でありあまり大きな差がなかった（図 4.6）。やはり、多くの人が、火山灰被害について詳細な理解を持っていないことがわかる。影響がどのくらいの規模まで広がるかよくわかっていない電気システムを置いておいても、また、それらの被害についても「被害はないと思う」「当日中には復旧すると思う」「2～3日くらいで復旧すると思う」「1週間くらいで復旧すると思う」「2週間くらいで復旧すると思う」などとの回答が多いが、これは「電車」「道路」「鉄道」「バス」などの交通系の被害では被害を小さく見積もりすぎであり、それ以外については過剰に被害を見積もりすぎであることがわかる。

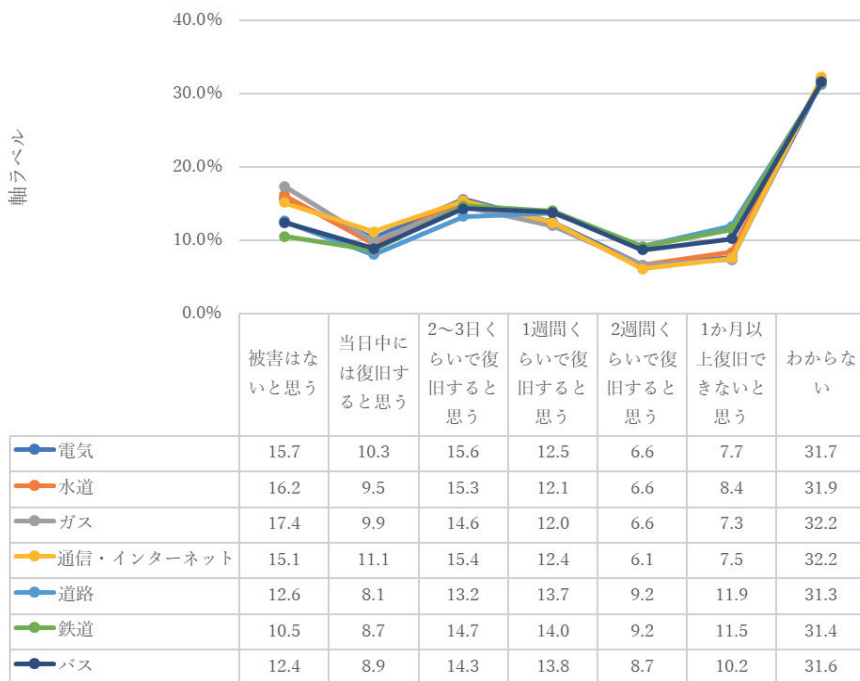


図 4.6 自宅周辺の電気・ガス・水道・道路・交通機関などの被害はどのくらいの間、続くと思うか

5. 富士山噴火と避難行動

大規模降灰時には、特段、近くの避難所に避難する必然性はない。交通網などが麻痺し、生活物資などが届かなくなる可能性があることを考慮し（指示がでないならば）、必要ならば、広域に避難した方が得策である。だが秩序なく避難を始めると混乱するので、大規模降灰時には大規模な人数を避難させる必要があり、ある程度、統制をとって広域に避難させたり、道路の除灰などを行って、物資の搬入を実施させたりする必要がある。

では、実際に富士山が噴火したときにどのような行動をとると考えているか、行動面から考えていきたい。

なお、調査にあたっては、内閣府（防災）などで想定されている下記を情報として提示した後、回答を得た。

表5.1 提示した想定

富士山が大規模噴火して広域で降灰があった場合、首都圏では短時間で死者・負傷者が発生する可能性は低いと考えられます。しかし、以下のような影響は長期間（数週間～数か月）続くとおそれがあります。

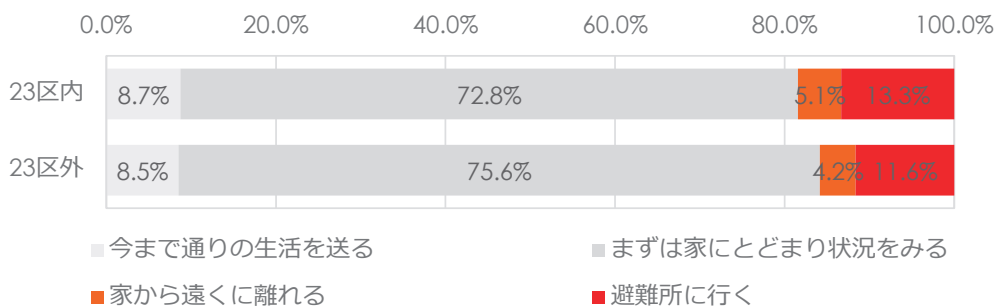
- ・大規模噴火後1～3時間程度で、首都圏全域が降灰で視界不良となり、自動車の運転困難、鉄道の運行停止、飛行機の運行停止（羽田空港・成田空港まで降灰が到達した場合は飛行機が運行しない）により、移動が困難になる
- ・その後1日～数日間の降灰で自動車の通行が困難となり、食料等の物流が停止する地域がある
- ・降り積もった火山灰と雨により、電柱の器機がショートし各地で停電が発生する地域がある
- ・停電の発生等により、通信の途絶、断水、下水道の停止等ライフラインにも影響が発生する地域がある
- ・降灰30cm以上(降雨時)の場合には重みにより木造家屋が倒壊する地域がある

5.1 富士山噴火直後の行動

「もし、富士山の噴火が起こった場合、あなたはまず、どうしますか」と問うたところ、7割強の人が「まずは家にとどまり状況をみる」と回答した（図5.1）。

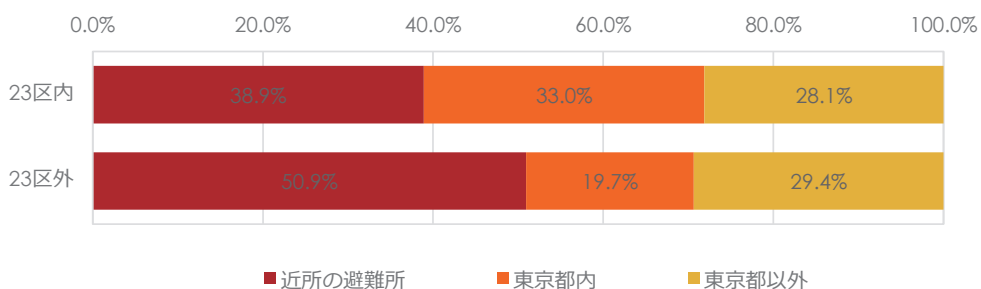
「もし、富士山の噴火が起こって、降灰で家での生活が困難になり、長期的に避難せざるを得なくなった場合、まず避難するとしたらあなたはどこに避難しますか。」と聞いたところ、「近所の避難所」（23区内38.9%：23区外50.9%）と最も多かった（これはよりリスクが高いと考えられる都下（23区外）において顕著であった）。大規模降灰の場合は近所の避難所も同じ状況のはずなのだが、家にいたら危険がある場合に避難先に避難するという地震や水害などの避難と明確な区別がついていないのではないかと示唆される（図5.2）。

では次にどこに避難するか。まずは、おおむね近所、近郊の「祖父母、父母、子どもなどの家」「親戚の家」の家に避難する（図5.2、図5.3）。



(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図5.1 富士山の噴火が起こった場合、まず、どうするか（23区内外）



(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図5.2 降灰で家での生活が困難になり、長期的に避難せざるを得なくなった場合、まず避難するとしたらあなたはどこに避難するか（23区内外）

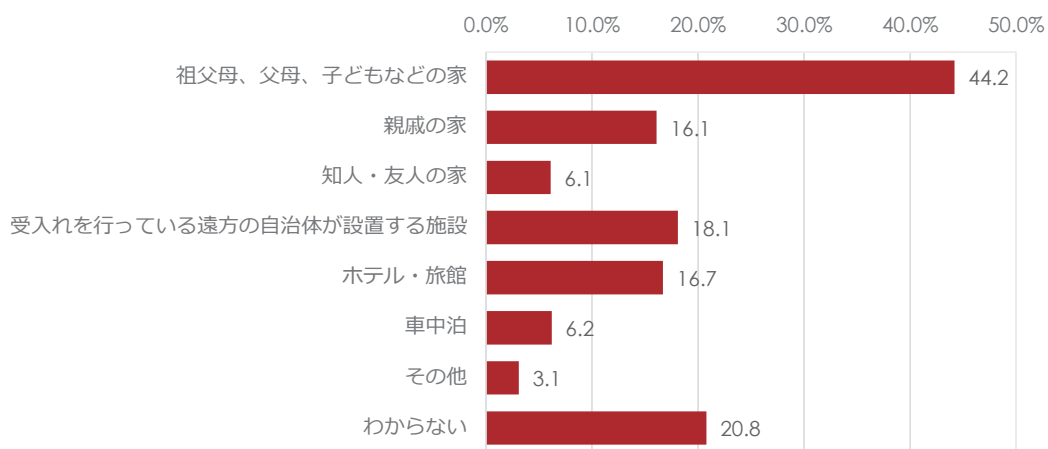


図5.3 まず避難する避難先 (N=1288)

避難先としては、必ずしも、東京近郊が多いわけではなく、避難期間が長くない場合においては、遠方も含めて直系親族や親せきの家というのが大きな選択肢であることがわかる（表5.2）。

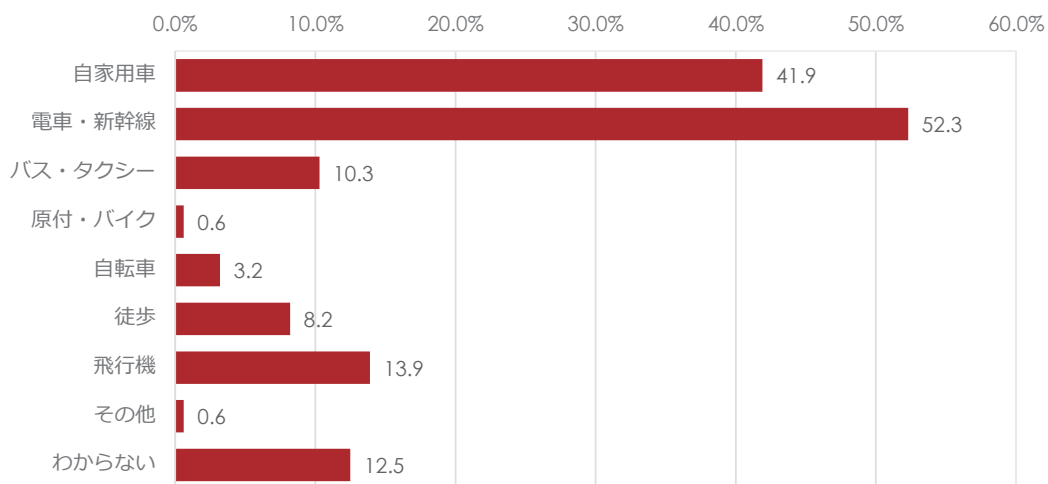


図5.4 「まず避難する避難先」への避難手段 (N=1020)

表5.2 「まず避難する避難先」の具体的な地域 (図5.3にそれぞれ回答した人)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
合計値	71	31	23	38	21	23	60	64	50	49	90	74	64	35	56	20	15	7	7	70	10	13	38	9
1. 祖父母、父母、子どもなどの家 (N=569)	26	19	11	10	10	5	20	28	13	19	50	39	7	22	30	9	4	4	1	29	6	10	18	7
2. 親戚の家 (N=207)	4	5	5	7	4	10	10	5	11	8	9	12	6	5	10	4	6	2	1	10	1	1	9	0
3. 知人・友人の家 (N=78)	9	0	2	4	0	3	3	3	5	1	3	5	11	1	3	1	0	1	0	1	1	0	2	1
4. 受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設 (N=233)	12	2	1	7	2	1	10	6	7	11	10	6	15	3	4	3	2	0	0	7	2	2	1	1
5. ホテル・旅館 (N=215)	16	2	2	8	3	3	8	10	10	5	12	7	14	2	3	3	2	0	1	11	0	0	6	0
6. 車中泊 (N=80)	2	3	1	2	1	1	7	10	3	4	4	2	11	0	2	0	1	0	1	4	0	0	1	0
7. その他 (N=40)	2	0	1	0	1	0	2	2	1	1	2	3	0	2	4	0	0	0	3	8	0	0	1	0
	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	わからない
合計値	4	31	65	41	7	11	6	3	14	17	7	6	9	6	4	35	5	9	5	8	4	10	11	166
1. 祖父母、父母、子どもなどの家 (N=569)	4	15	29	24	7	6	5	2	8	7	4	3	7	6	1	19	2	6	2	4	3	5	1	2
2. 親戚の家 (N=207)	0	5	15	7	0	1	0	1	2	6	2	2	0	1	2	2	2	1	3	1	1	1	5	
3. 知人・友人の家 (N=78)	0	3	3	2	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2	1
4. 受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設 (N=233)	0	3	3	5	0	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	2	6	0	1	0	0	0	2	89
5. ホテル・旅館 (N=215)	0	5	12	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	2	53
6. 車中泊 (N=80)	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
7. その他 (N=40)	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0

5.2 長期的に避難せざるを得なくなった場合の避難行動

都内に食料が入らなくなった場合は、「受け入れを行っている遠方の自治体が設置する施設」（30.7%）、「祖父母、父母、子どもなどの家」（24.2%）に避難すると答えている。なお「まず避難する」場合と比べて、避難先について「わからない」と答えている人も多いことから、避難先についての情報提供が必要であることがわかる（図5.5）。

また避難手段として、「まず避難する避難先」への避難手段（図5.4）よりも、徒歩が大幅に増えている。これは「都内に食料が入らなくなった場合」には、徒歩で移動せざるを得ない状況であることを理解していることの証左であろう（図5.6）。

また都内、近郊への避難を考えている人が多く、あまり遠くに避難することは考えていないことがわかる（表5.3）。

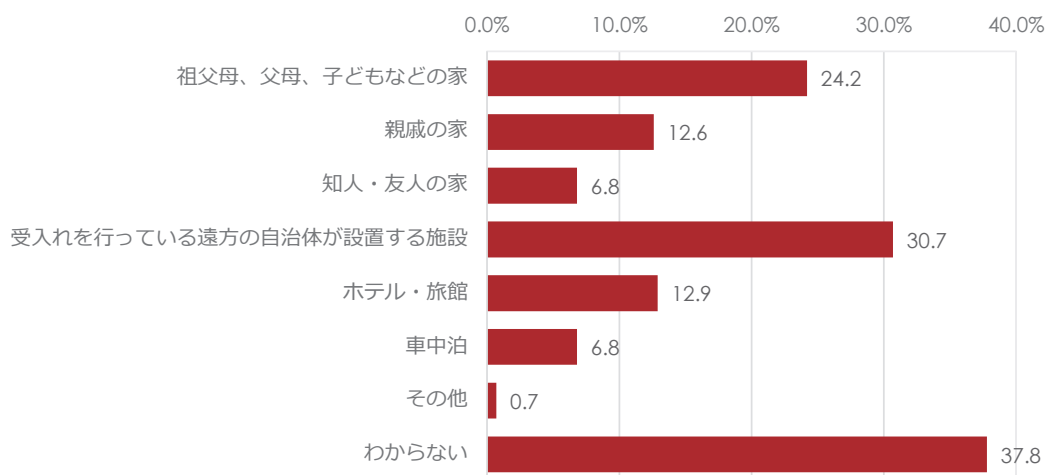


図5.5 その後、都内に食料など物資が入らなくなった場合に避難する避難先（N=3190）

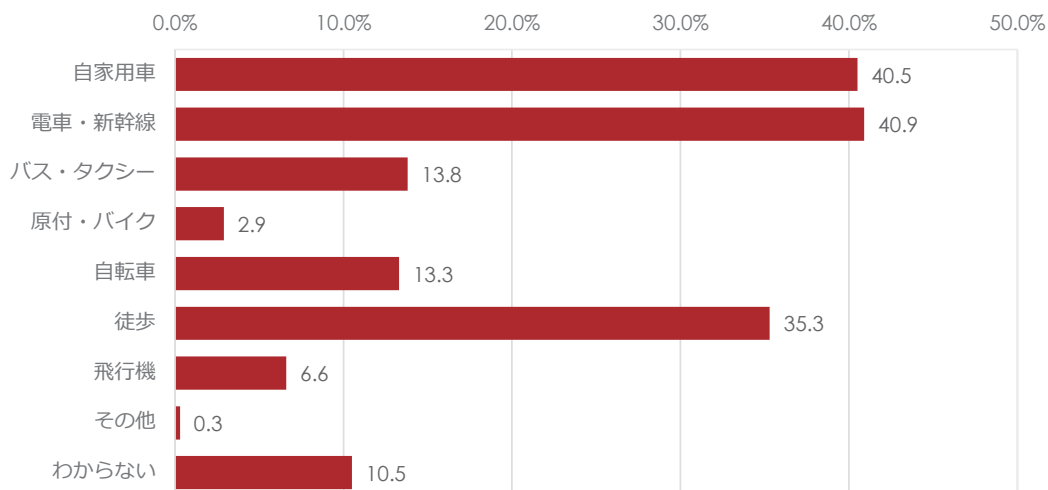


図5.6 「その後、都内に食料など物資が入らなくなった場合に避難する避難先」への避難手段 (N=1984)

表5.3 「その後、都内に食料など物資が入らなくなった場合に避難する避難先」の具体的な地域 (図5.5にそれぞれ回答した人)

	1 北海道	2 青森県	3 岩手県	4 宮城県	5 秋田県	6 山形県	7 福島県	8 茨城県	9 栃木県	10 群馬県	11 埼玉県	12 千葉県	13 東京都	14 神奈川県	15 新潟県	16 富山県	17 石川県	18 福井県	19 山梨県	20 長野県	21 岐阜県	22 静岡県	23 愛知県	24 三重県
合計値	69	21	14	52	22	28	46	68	56	50	177	170	1249	112	41	9	19	11	13	54	5	23	48	10
1. 祖父母、父母、子どもなどの家 (N=771)	11	8	5	11	11	9	10	24	19	12	49	45	285	54	14	3	9	5	8	22	2	10	20	4
2. 親戚の家 (N=401)	15	6	6	14	2	8	10	15	11	10	46	26	84	20	9	1	4	2	3	12	3	7	15	5
3. 知人・友人の家 (N=218)	8	0	0	7	1	5	2	9	3	2	14	20	96	8	1	1	0	1	0	0	0	3	2	1
4. 受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設 (N=978)	23	3	2	12	6	2	13	14	16	13	46	50	430	17	11	3	3	3	2	10	0	2	6	0
5. ホテル・旅館 (N=412)	11	4	1	8	2	1	8	3	4	10	10	22	196	11	2	1	2	0	0	7	0	1	5	0
6. 車中泊 (N=217)	1	0	0	0	0	3	3	3	3	12	6	139	2	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
7. その他 (N=23)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	18	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0
	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	わからない
合計値	5	13	70	32	7	6	3	2	14	16	15	2	5	8	2	34	2	5	7	7	8	7	8	376
1. 祖父母、父母、子どもなどの家 (N=771)	1	5	27	19	3	2	2	0	7	7	8	2	3	4	0	11	1	3	3	4	6	1	0	2
2. 親戚の家 (N=401)	3	2	13	7	2	1	1	1	2	3	3	0	2	1	1	9	0	1	2	3	1	4	0	5
3. 知人・友人の家 (N=218)	0	1	9	1	2	2	0	0	1	3	0	0	0	1	1	3	0	0	0	0	1	0	1	8
4. 受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設 (N=978)	1	3	11	2	0	1	0	0	3	3	2	0	0	0	0	8	1	0	2	0	0	2	2	250
5. ホテル・旅館 (N=412)	0	1	9	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	5	78
6. 車中泊 (N=217)	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	33
7. その他 (N=23)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

6. 富士山噴火の想定と対策

最後に富士山の被害想定とその対策についての認知についてまとめる。

6.1 富士山噴火の被害想定についての知識と意識

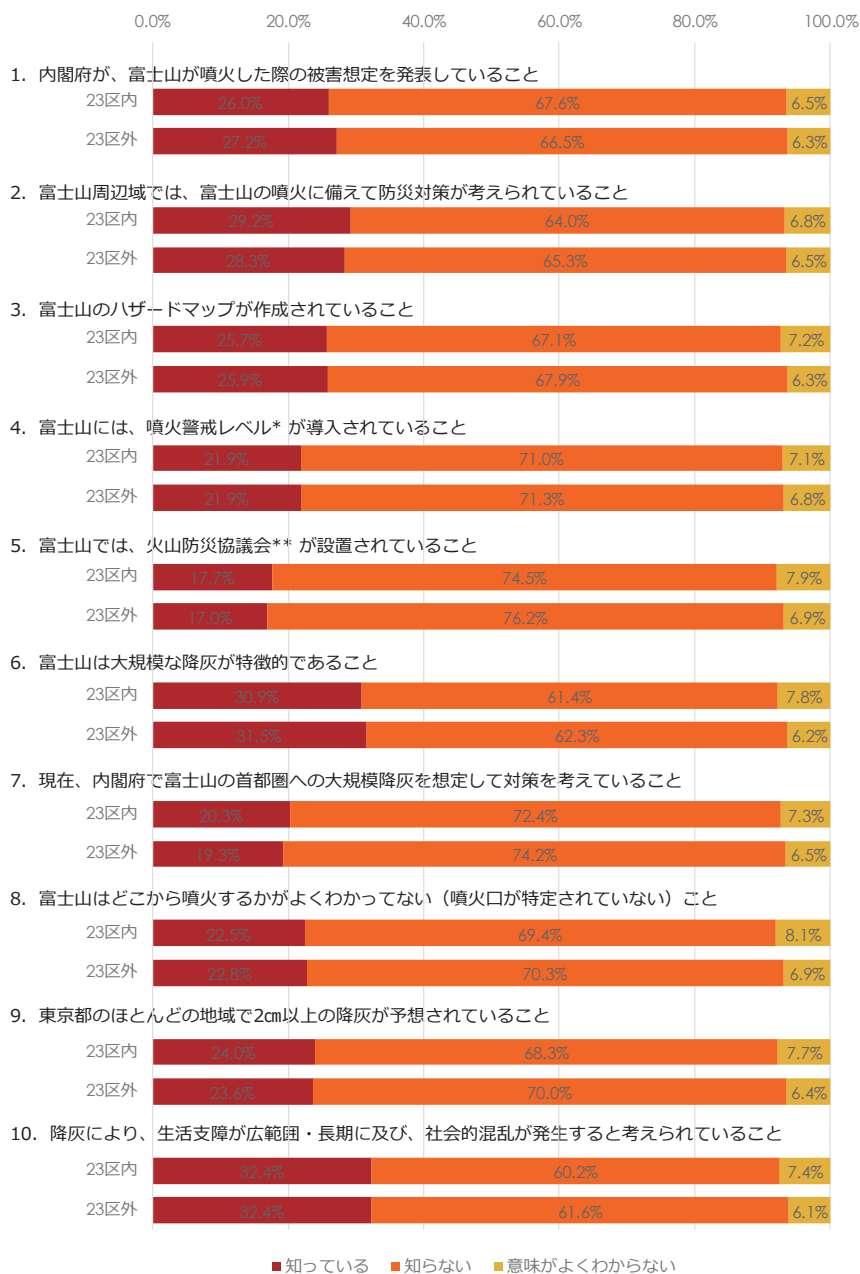
まず、富士山噴火の被害想定についていくつかの質問について問うた。「富士山は大規模な降灰が特徴的であること」「降灰により、生活支障が広範囲・長期に及び、社会的混乱が発生すると考えられていること」「富士山周辺域では、富士山の噴火に備えて防災対策が考えられていること」「内閣府が、富士山が噴火した際の被害想定を公表していること」などが3割程度の認知率であった。

また、「富士山のハザードマップが作成されていること」「富士山には、噴火警戒レベル（火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と防災機関や住民等の「とるべき防災対応」を5段階に区分して発表する指標）が導入されていること」「富士山では、火山防災協議会（関係防災機関による被害想定、防災対策、ハザードマップの作成などを推進するための組織）が設置されていること」「現在、内閣府で富士山の首都圏への大規模降灰を想定して対策を考えていること」「富士山はどこから噴火するかがよくわかっていない（噴火口が特定されていない）こと」「東京都のほとんどの地域で2cm以上の降灰が予想されていること」など具体的な事実関係の認知についてはおおむね2割程度の認知率であった（図6.2）。富士山噴火にかかる被害想定やハザードマップ、その対策などについてはあまり知られていないことがわかる。

次に、富士山の被害想定について、知らない人も多いので、端的に下記の現状を示し、その感想を聞いた。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・内閣府が、富士山が噴火した際の被害想定を公表している・富士山はどこから噴火するかがよくわかっていない（噴火口が特定されていない）・富士山は大規模な降灰が特徴的であり、内閣府は富士山の首都圏への大規模降灰を想定して対策を考えている・東京都のほとんどの地域で2cm以上の降灰が予想されている・降灰により、生活支障が広範囲・長期に及び、社会的混乱が発生すると考えられている・これらの想定に基づき、富士山のハザードマップが作成されている |
|--|

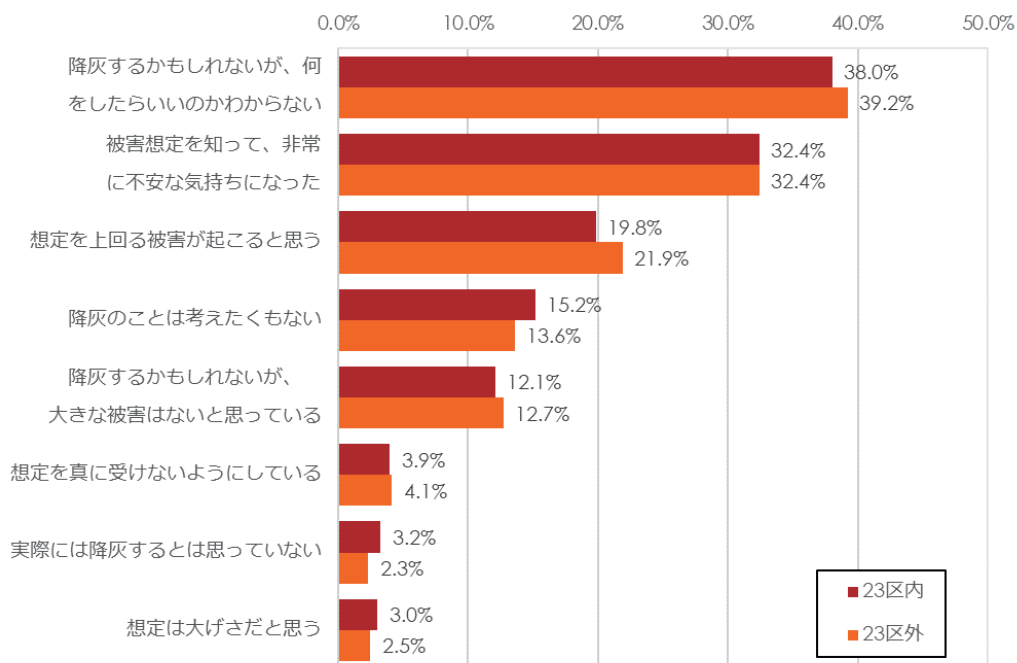
最も多かった回答は、「降灰するかもしれないが、何をしたらいいのかわからない」というものであった。次に「被害想定を知って、非常に不安な気持ちになった」「想定を上回る被害が起こると思う」などが続く（図6.2）。



(χ^2 検定 ***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05 無印: 有意差なし)

図注：調査票においては、噴火警戒レベル*、火山防災協議会**のところでは、直後に括弧をつけて、説明をしている。グラフ上では省略する。省略したものは以下の通り。*（火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と防災機関や住民等の「とるべき防災対応」を5段階に区分して発表する指標）**（関係防災機関による被害想定、防災対策、ハザードマップの作成などを推進するための組織）

図 6.1 富士山の被害想定について



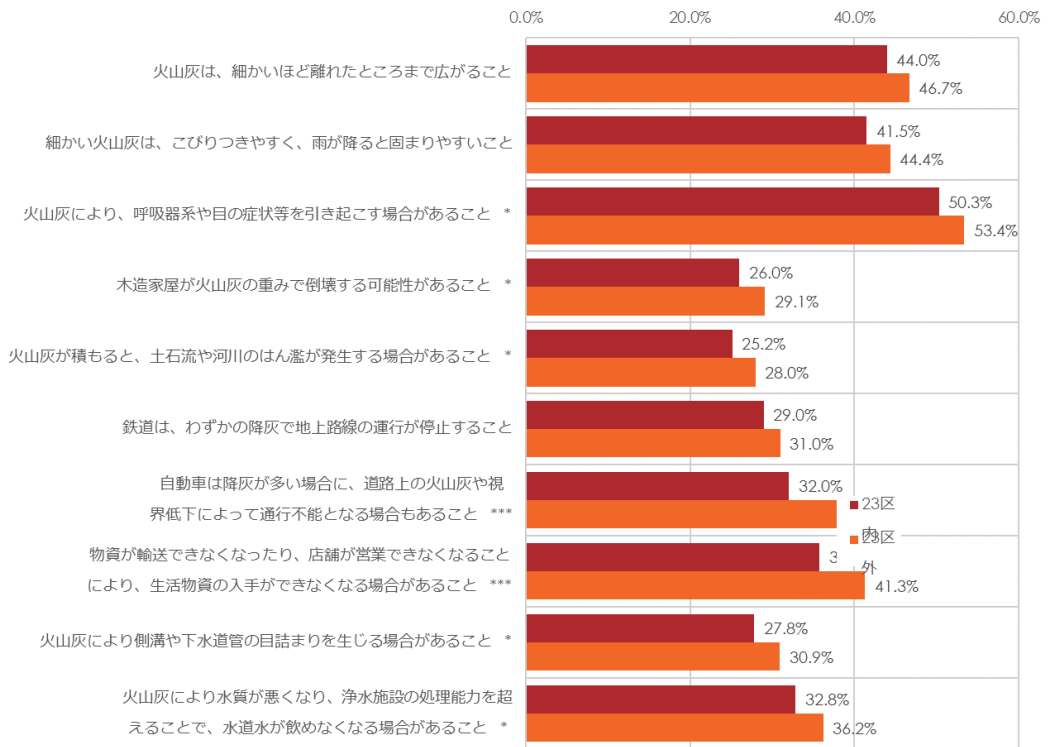
(χ^2 検定 ***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05 無印: 有意差なし)

図6.2 被害想定を知って思ったこと

6.2 富士山噴火に関する火山灰対策に関する知識と実態

次に火山灰による被害について、いくつかの項目について、知っているかどうかを聞いた。「火山灰により、呼吸器系や目の症状等を引き起こす場合があること」「火山灰は、細かいほど離れたところまで広がること」「細かい火山灰は、こびりつきやすく、雨が降ると固まりやすいこと」などは、5割～4割程度の回答率であった。

また、「物資が輸送できなくなったり、店舗が営業できなくなることにより、生活物資の入手ができなくなる場合があること」「自動車は降灰が多い場合に、道路上の火山灰や視界低下によって通行不能となる場合もあること」「鉄道は、わずかの降灰で地上路線の運行が停止すること」「火山灰が積もると、土石流や河川のはん濫が発生する場合があること」「木造家屋が火山灰の重みで倒壊する可能性があること」「火山灰により水質が悪くなり、浄水施設の処理能力を超えることで、水道水が飲めなくなる場合があること」「火山灰により側溝や下水道管の目詰まりを生じる場合があること」などについて、4割～2割くらいの回答率であった。また、これらについては基本的に、いずれの項目においても、火山灰の影響の大きい都下（23区外）の方が認知率が高かった（図6.3）。



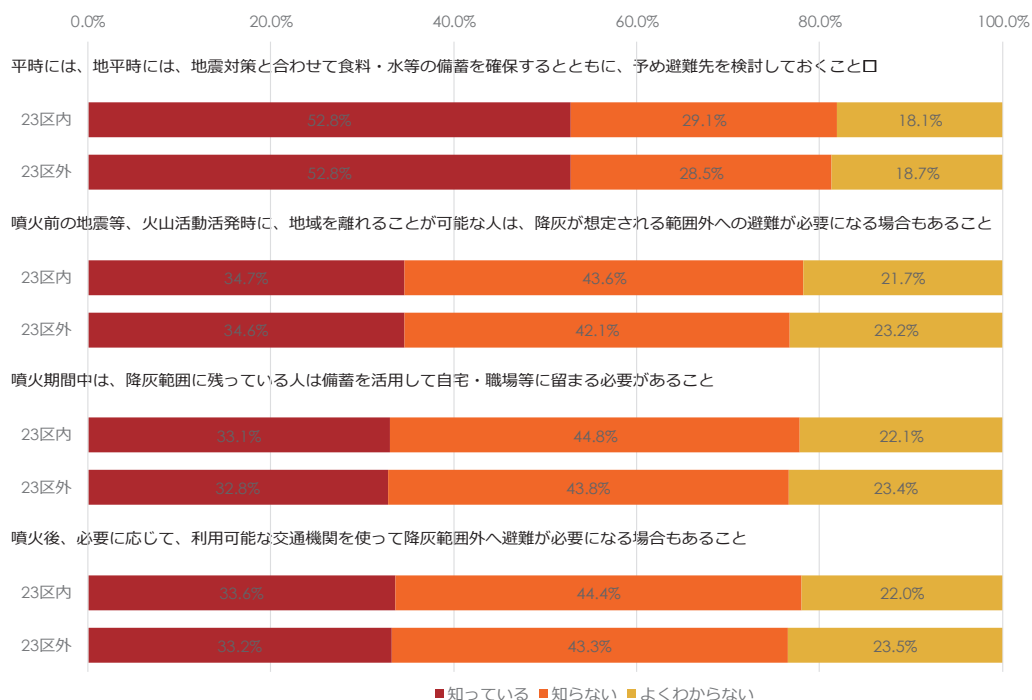
(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図6.3 火山灰の被害についての認知 (23区内外別)

また、富士山の噴火による降灰への備えについて、内閣府（防災）は、住民等の基本的な考え方を示している。これについても聞いた。「平時には、地震対策と合わせて食料・水等の備蓄を確保するとともに、予め避難先を検討しておくこと」が5割程度、「噴火前の地震等、火山活動活発時に、地域を離れることが可能な人は、降灰が想定される範囲外への避難が必要になる場合もあること」「噴火期間中は、降灰範囲に残っている人は備蓄を活用して自宅・職場等に留まる必要があること」「噴火後、必要に応じて、利用可能な交通機関を使って降灰範囲外へ避難が必要になる場合もあること」については、それぞれ3割程度の認知率であり、大規模噴火時の対策についてはあまり知られていなかった（図6.4）。

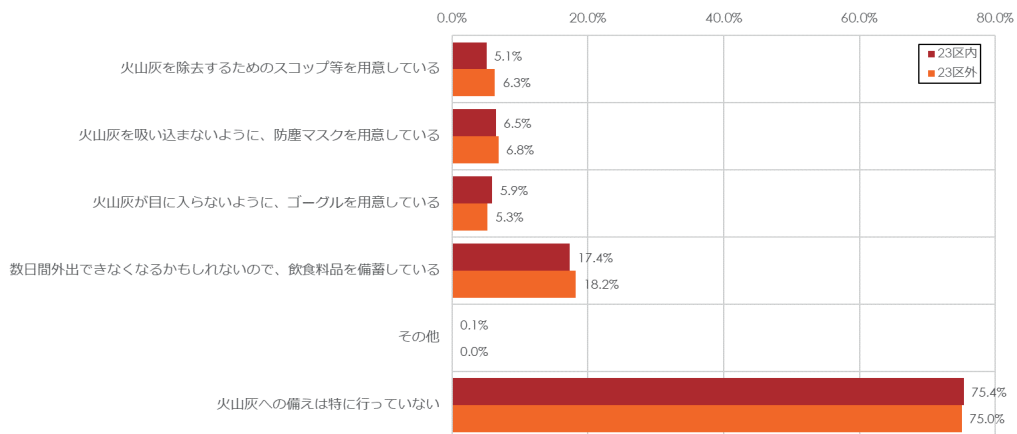
また、一般に火山灰対策の備品としては、「火山灰を除去するためのスコップ」「防塵マスク」「ゴーグル」「飲食料品」などがあるが、これらについて、準備をしているとい

う人は少なく、「火山灰への備えは特に行っていない」という人が8割弱であった（図6.5）。



(χ^2 検定 ***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05 無印: 有意差なし)

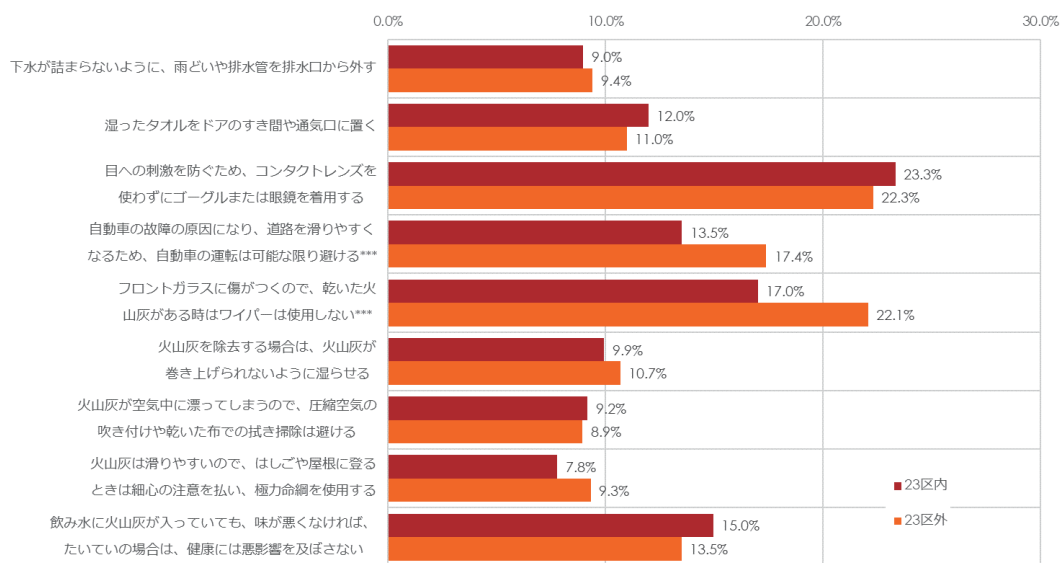
図6.4 富士山の噴火による降灰への備えとして、内閣府が示す基本的な考え方の認知(23区内外別)



(χ^2 検定 ***: p<.001, **: p<.01, *: p<.05 無印: 有意差なし)

図6.5 富士山噴火に対する火山灰への備えとして行っているもの(準備している品目)

また上記を踏まえた上で、火山灰への対策として、知っている項目を聞いた。「目への刺激を防ぐため、コンタクトレンズを使わずにゴーグルまたは眼鏡を着用する」「フロントガラスに傷がつくので、乾いた火山灰がある時はワイパーは使用しない」が2割程度、「飲み水に火山灰が入っていても、味が悪くなければ、たいていの場合は、健康には悪影響を及ぼさない」「自動車の故障の原因になり、道路を滑りやすくなるため、自動車の運転は可能な限り避ける」が1割5分程度、「湿ったタオルをドアのすき間や通気口に置く」「下水が詰まらないように、雨どいや排水管を排水口から外す」「火山灰を除去する場合は、火山灰が巻き上げられないように湿らせる」「火山灰が空気中に漂ってしまうので、圧縮空気の吹き付けや乾いた布での拭き掃除は避ける」「火山灰は滑りやすいので、はしごや屋根に登るときは細心の注意を払い、極力命綱を使用する」などはどれも1割程度しか認知されていなかった。いずれも、認知率は低く、降灰対策としての認識は極めて低いことがわかった（図6.6）。



(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図6.6 火山灰対策の知識

6.3 富士山噴火を理解する上で必要な用語の認知と情報

最後に富士山噴火を人々が理解する上で必要な用語と情報について問うた。火山にかかる用語を人々はどれくらい認知しているだろうか。具体的に目に見える「降灰」(56.4%)「土石流」(56.4%)、「噴石」(52.3%)、「溶岩流」(51.7%)、「火砕流」(49.2%)、「泥流」(38.9%)などは、認知率が高かった。

一方、目に見えるものではない、概念である「火山性地震」(36.4%)、「火山性微動」(26.1%)、「低周波地震」(15.9%)、「空振」(13.7%)については認知率は低かった(図6.7)。なお、これは地域によって違いはなかった。

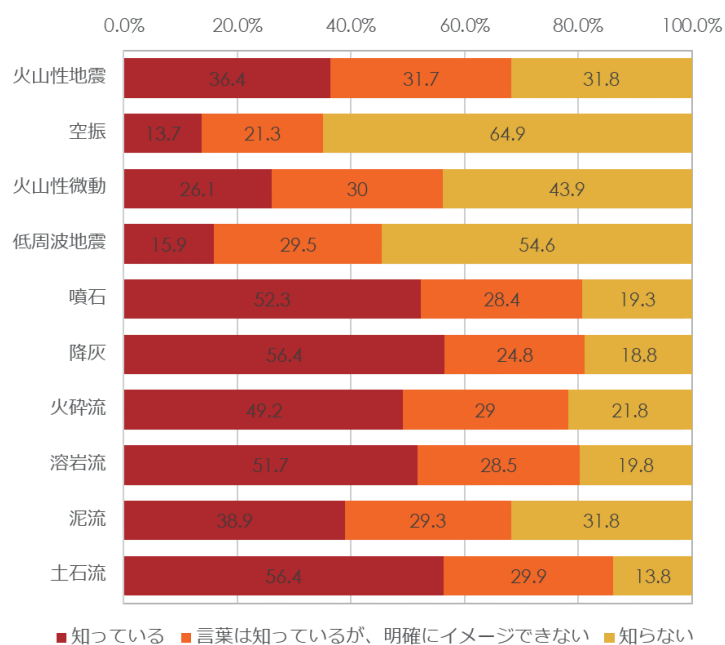
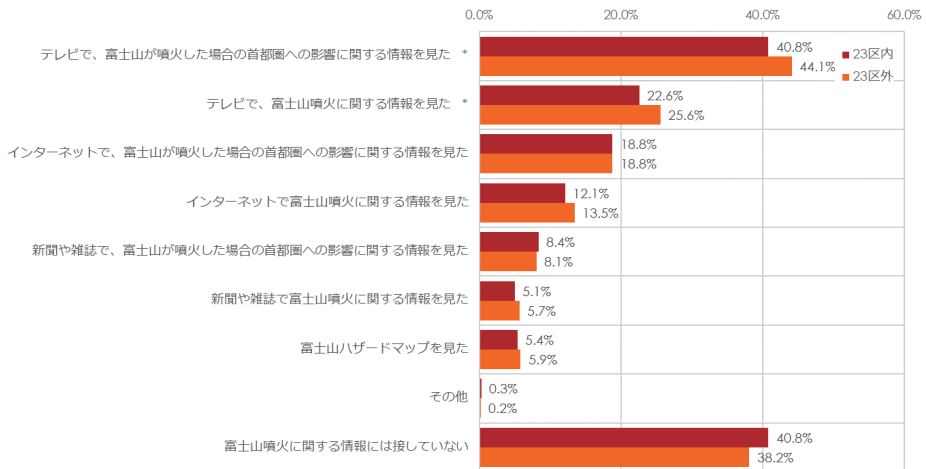


図6.7 火山用語の認知率

また、情報減については、噴火した場合の首都圏への影響などに関する情報をテレビから得たという人が多く、インターネットでそれらに接したという人は2割～1割程度であった。また、新聞や雑誌で情報を見たという人が1割以下であった。積極的に情報収集しようという情報ではないので、テレビなどで様々なメディアで周知していく必要があると考えられる。なお、富士山ハザードマップを見たという人は1割以下であった(図6.8)。



(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図6.8 富士山噴火と情報源

7. おわりに

発生頻度の高くない火山噴火災害、特に大規模降灰は報道されることも少なく、関心も低く、不安に思う人も対策が必要だと思う人も少ない。東京都内で宝永噴火、大規模な降灰が過去にあったことを知っている人は約半数しかおらず、詳細を知っている人も少ない。ただ、もしも噴火したときは降灰で大きな影響を受けるであろうことは認識している人は多かった。

だが、降灰の影響として最も影響が大きいと考えられている「電車が止まる」「飛行機が飛べなくなる」「自動車が走れなくなる」「帰宅・出勤困難になる」「停電する」という認識を持っている人は4割から3割程度で決して多くはなかった一方、「水道が止まる」「ガスが止まる」と考えにくいものも2割程度の人があるような認識を持っていた。

また、基本的には直系親族を頼ってzz広域に避難するという傾向がみえたが、降灰被害の際に同程度の降灰状況なはずの近所の避難所に避難するという人が23区で4割、23区外で5割と一定程度おり、降灰被害についてイメージできていないこともわかった。被害想定の詳細や避難などについて、知らない、イメージを持っていないという人も多く、結果として、特段、富士山噴火への備えは行われていなかった。

火山噴火は一度発生すると被害は大きい極めて頻度・確度が低い。大規模降灰に平時から備えよというのも難しい。とはいえ関心や不安感が低い状況ではやむをえない。今後の方策として、せめて富士山が噴火した場合どのような状況になるかという避難方策や考えうる想定やシナリオなどについて意識・知識の啓発だけでも行うべきではなからうか。

附属資料 単純集計結果（該当部分の抜粋）

(SA) 【調査1】 F1. 性別

		実数	%
全体		4478	100.0
1	男性	2195	49.0
2	女性	2283	51.0

(NF) 【調査1】 F2_1. 年齢 (FA)

	全体	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最大値	最小値	中央値
	4478	4478	206403.0	46.1	13.4	69.0	20.0	47.0

(SA) 【調査1】 OF2. 年代

		実数	%
全体		4478	100.0
1	10代	0	0.0
2	20代	681	15.2
3	30代	901	20.1
4	40代	966	21.6
5	50代	980	21.9
6	60代	950	21.2
7	70代以上	0	0.0

(SA) 【調査1】 S01. あなたのお住まいの都道府県をお答えください。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	東京都	4478	100.0
2	それ以外	0	0.0

(SA) 【調査1】 SC2. あなたのお住まいの市区町村をお答えください。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	千代田区	83	1.9
2	中央区	88	2.0
3	港区	94	2.1
4	新宿区	97	2.2
5	文京区	89	2.0
6	台東区	86	1.9
7	墨田区	90	2.0
8	江東区	93	2.1
9	品川区	98	2.2
10	目黒区	94	2.1
11	大田区	96	2.1
12	世田谷区	97	2.2
13	渋谷区	92	2.1
14	中野区	91	2.0
15	杉並区	94	2.1
16	豊島区	93	2.1
17	北区	92	2.1
18	荒川区	88	2.0
19	板橋区	100	2.2
20	練馬区	95	2.1
21	足立区	98	2.2
22	葛飾区	91	2.0
23	江戸川区	99	2.2
24	八王子市	98	2.2
25	立川市	94	2.1
26	武蔵野市	94	2.1
27	三鷹市	87	1.9
28	青梅市	89	2.0
29	府中市	93	2.1
30	昭島市	83	1.9
31	調布市	95	2.1
32	町田市	90	2.0
33	小金井市	86	1.9
34	小平市	90	2.0
35	日野市	93	2.1
36	東村山市	92	2.1
37	国分寺市	92	2.1
38	国立市	84	1.9
39	福生市	76	1.7
40	狛江市	85	1.9
41	東大和市	88	2.0
42	清瀬市	87	1.9
43	東久留米市	92	2.1
44	武蔵村山市	77	1.7
45	多摩市	91	2.0
46	稲城市	87	1.9
47	羽村市	65	1.5
48	あきる野市	82	1.8
49	西東京市	94	2.1
50	瑞穂町	33	0.7
51	日の出町	20	0.4
52	檜原村	0	0.0
53	奥多摩町	3	0.1
54	大島町	0	0.0
55	利島村	0	0.0
56	新島村	0	0.0
57	神津島村	0	0.0
58	三宅村	0	0.0
59	御蔵島村	0	0.0
60	八丈町	0	0.0
61	青ヶ島村	0	0.0
62	小笠原村	0	0.0

SC3. あなたが主に通勤・通学している市区町村をお答えください。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	千代田区	325	7.3
2	中央区	184	4.1
3	港区	285	6.4
4	新宿区	279	6.2
5	文京区	72	1.6
6	台東区	69	1.5
7	墨田区	45	1.0
8	江東区	92	2.1
9	品川区	115	2.6
10	目黒区	52	1.2
11	大田区	67	1.5
12	世田谷区	77	1.7
13	渋谷区	146	3.3
14	中野区	60	1.3
15	杉並区	66	1.5
16	豊島区	85	1.9
17	北区	41	0.9
18	荒川区	30	0.7
19	板橋区	35	0.8
20	練馬区	45	1.0
21	足立区	32	0.7
22	葛飾区	30	0.7
23	江戸川区	44	1.0
24	八王子市	77	1.7
25	立川市	86	1.9
26	武蔵野市	55	1.2
27	三鷹市	34	0.8
28	青梅市	55	1.2
29	府中市	60	1.3
30	昭島市	49	1.1
31	調布市	52	1.2
32	町田市	35	0.8
33	小金井市	26	0.6
34	小平市	36	0.8
35	日野市	39	0.9
36	東村山市	33	0.7
37	国分寺市	28	0.6
38	国立市	27	0.6
39	福生市	30	0.7
40	狛江市	23	0.5
41	東大和市	33	0.7
42	清瀬市	25	0.6
43	東久留米市	26	0.6
44	武蔵村山市	34	0.8
45	多摩市	39	0.9
46	稲城市	25	0.6
47	羽村市	39	0.9
48	あきる野市	26	0.6
49	西東京市	30	0.7
50	瑞穂町	18	0.4
51	日の出町	7	0.2
52	檜原村	1	0.0
53	奥多摩町	4	0.1
54	大島町	0	0.0
55	利島村	0	0.0
56	新島村	0	0.0
57	神津島村	0	0.0
58	三宅村	0	0.0
59	御蔵島村	0	0.0
60	八丈町	0	0.0
61	青ヶ島村	0	0.0
62	小笠原村	0	0.0
63	東京都以外	180	4.0
64	通勤も通学も	970	21.7

(SA) 【調査1】 Q7. あなたは、以下の災害について関心がありますか。あてはまるものを、それぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	
【調査1】 Q7項目1	首都直下地震	%	100.0	43.5	37.7	10.9	7.9
		実数	4478	1948	1687	489	354
【調査1】 Q7項目2	南海トラフ地震	%	100.0	29.3	41.1	19.5	10.2
		実数	4478	1310	1840	873	455
【調査1】 Q7項目3	その他の地域で発生する地震	%	100.0	20.6	45.3	23.1	11.0
		実数	4478	923	2029	1033	493
【調査1】 Q7項目4	津波	%	100.0	17.2	35.8	31.1	15.9
		実数	4478	770	1603	1394	711
【調査1】 Q7項目5	富士山の噴火	%	100.0	26.1	40.4	22.0	11.5
		実数	4478	1169	1811	983	515
【調査1】 Q7項目6	富士山の噴火による大規模降灰	%	100.0	26.8	40.3	21.5	11.4
		実数	4478	1199	1804	963	512
【調査1】 Q7項目7	富士山以外の火山の噴火	%	100.0	16.1	37.9	32.1	13.8
		実数	4478	723	1698	1438	619
【調査1】 Q7項目8	河川の大規模なはん濫（荒川や多摩川など）	%	100.0	22.6	40.3	24.5	12.6
		実数	4478	1013	1803	1097	565
【調査1】 Q7項目9	土砂災害（がけ崩れや地すべりなど）	%	100.0	15.5	36.4	33.2	14.9
		実数	4478	692	1629	1488	669
【調査1】 Q7項目10	台風	%	100.0	31.8	44.7	15.2	8.3
		実数	4478	1422	2003	680	373

(SA) 【調査1】 Q8. あなたは、以下の災害について不安を感じていますか。あてはまるものを、それぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	不安を感じている	やや不安を感じている	あまり不安を感じていない	不安を感じていない	
【調査1】 Q8項目1	首都直下地震	%	100.0	44.7	38.9	10.8	5.6
		実数	4478	2001	1744	483	250
【調査1】 Q8項目2	南海トラフ地震	%	100.0	30.1	40.2	21.4	8.2
		実数	4478	1350	1800	959	369
【調査1】 Q8項目3	その他の地域で発生する地震	%	100.0	22.5	42.8	26.0	8.7
		実数	4478	1008	1918	1164	388
【調査1】 Q8項目4	津波	%	100.0	14.5	29.0	36.9	19.7
		実数	4478	649	1297	1652	880
【調査1】 Q8項目5	富士山の噴火	%	100.0	24.0	38.3	27.1	10.7
		実数	4478	1073	1715	1212	478
【調査1】 Q8項目6	富士山の噴火による大規模降灰	%	100.0	25.2	39.8	24.8	10.3
		実数	4478	1127	1781	1109	461
【調査1】 Q8項目7	富士山以外の火山の噴火	%	100.0	15.6	34.1	36.2	14.2
		実数	4478	698	1526	1620	634
【調査1】 Q8項目8	河川の大規模なはん濫（荒川や多摩川など）	%	100.0	20.9	36.0	30.4	12.8
		実数	4478	935	1610	1361	572
【調査1】 Q8項目9	土砂災害（がけ崩れや地すべりなど）	%	100.0	14.9	31.1	37.4	16.6
		実数	4478	665	1392	1677	744
【調査1】 Q8項目10	台風	%	100.0	29.3	43.7	19.4	7.6
		実数	4478	1310	1958	869	341

(SA) 【調査1】 Q9. あなたは、以下の災害について対策の必要性を感じていますか。あてはまるものを、それぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	対策の必要性を感じている	やや対策の必要性を感じている	あまり対策の必要性を感じていない	対策の必要性を感じていない	
【調査1】 Q9項目1	首都直下地震	%	100.0	43.2	40.5	10.9	5.3
		実数	4478	1936	1815	490	237
【調査1】 Q9項目2	南海トラフ地震	%	100.0	28.5	40.5	22.5	8.5
		実数	4478	1275	1814	1008	381
【調査1】 Q9項目3	その他の地域で発生する地震	%	100.0	21.7	41.7	27.0	9.6
		実数	4478	973	1866	1209	430
【調査1】 Q9項目4	津波	%	100.0	16.0	29.1	35.5	19.4
		実数	4478	717	1303	1591	867
【調査1】 Q9項目5	富士山の噴火	%	100.0	21.6	38.2	28.6	11.7
		実数	4478	966	1711	1279	522
【調査1】 Q9項目6	富士山の噴火による大規模降灰	%	100.0	22.6	38.8	27.7	11.0
		実数	4478	1010	1737	1239	492
【調査1】 Q9項目7	富士山以外の火山の噴火	%	100.0	16.0	32.9	36.5	14.6
		実数	4478	715	1475	1633	655
【調査1】 Q9項目8	河川の大規模なはん濫（荒川や多摩川など）	%	100.0	21.7	36.4	28.4	13.5
		実数	4478	972	1628	1273	605
【調査1】 Q9項目9	土砂災害（がけ崩れや地すべりなど）	%	100.0	16.3	32.4	35.1	16.2
		実数	4478	732	1450	1570	726
【調査1】 Q9項目10	台風	%	100.0	29.3	44.7	18.6	7.4
		実数	4478	1311	2000	835	332

(SA) 【調査1】 Q10. あなたは、以下の災害について、テレビのニュースや新聞の報道で目にしますか。あてはまるものを、それぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	目にする	やや目にする	あまり目にしない	目にしない	
【調査1】 Q10項目1	首都直下地震	%	100.0	23.6	42.8	24.1	9.5
		実数	4478	1055	1915	1081	427
【調査1】 Q10項目2	南海トラフ地震	%	100.0	20.8	42.0	26.2	11.1
		実数	4478	931	1880	1172	495
【調査1】 Q10項目3	その他の地域で発生する地震	%	100.0	16.1	40.1	32.2	11.6
		実数	4478	723	1795	1440	520
【調査1】 Q10項目4	津波	%	100.0	15.9	41.0	31.8	11.3
		実数	4478	710	1837	1423	508
【調査1】 Q10項目5	富士山の噴火	%	100.0	11.2	30.6	39.5	18.7
		実数	4478	502	1370	1770	836
【調査1】 Q10項目6	富士山の噴火による大規模降灰	%	100.0	11.2	28.5	40.7	19.6
		実数	4478	501	1277	1822	878
【調査1】 Q10項目7	富士山以外の火山の噴火	%	100.0	11.3	32.2	39.3	17.2
		実数	4478	504	1443	1759	772
【調査1】 Q10項目8	河川の大規模なはん濫（荒川や多摩川など）	%	100.0	14.9	40.4	32.7	12.1
		実数	4478	666	1808	1464	540
【調査1】 Q10項目9	土砂災害（がけ崩れや地すべりなど）	%	100.0	15.1	41.9	31.3	11.7
		実数	4478	674	1877	1401	526
【調査1】 Q10項目10	台風	%	100.0	25.8	46.1	19.9	8.2
		実数	4478	1156	2065	891	366
【調査1】 Q10項目11	高潮	%	100.0	10.0	31.2	41.3	17.5
		実数	4478	446	1399	1848	785

(SA) 【調査1】 Q11. あなたが住んでいる間に、富士山が噴火すると思いますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	噴火すると思う	547	12.2
2	噴火する可能性が高いと思う	1823	40.7
3	噴火する可能性は低いと思う	1614	36.0
4	噴火しないと思う	494	11.0

(SA) 【調査1】 Q12. もし、富士山の噴火が起こった場合、あなたが住んでいる地域は、どの程度の被害を受けると思いますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	大きな影響を受けると思う	1894	42.3
2	少し影響を受けると思う	2034	45.4
3	被害はないと思う	550	12.3

(MA) 【調査1】 Q13. もし、富士山の噴火が起こった場合、あなたが住んでいる地域では、どのような現象が起こると思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	頻繁な地震	1936	43.2
2	噴石	737	16.5
3	降灰	2919	65.2
4	火砕流	249	5.6
5	溶岩流	193	4.3
6	泥流・土石流	187	4.2
7	空が灰でおおわれる	2100	46.9
8	その他	37	0.8
9	何も起きないと思う	203	4.5
10	わからない	543	12.1

(FA) 【調査1】 Q13_8FA. もし、富士山の噴火が起こった場合、あなたが住んでいる地域では、どのような現象が起こると思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(省略)

(MA) 【調査1】 Q14 もし、富士山の噴火が起こった場合、あなたが住んでいる地域では具体的にどのような被害が起こると思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	日常生活が送れなくなる	1611	36.0
2	生活必需品や食料が手に入らなくなる	1880	42.0
3	エアコンが使えなくなる	1257	28.1
4	建物がつぶれる	322	7.2
5	健康被害が発生する	1688	37.7
6	死者が発生する	521	11.6
7	帰宅・出勤困難になる	1145	25.6
8	電車が止まる	1733	38.7
9	自動車が行けなくなる	1141	25.5
10	飛行機が飛ばなくなる	1212	27.1
11	停電する	1223	27.3
12	ガスが止まる	882	19.7
13	水道が止まる	983	22.0
14	携帯電話が使えなくなる	857	19.1
15	パニックが発生する	1196	26.7
16	経済活動が止まる	1219	27.2
17	視界が悪くなる	1857	41.5
18	被害はないと思う	216	4.8
19	わからない	698	15.6

(SA) 【調査1】 Q15 もし、富士山の噴火が起こった場合、あなたの住んでいる地域ではどのぐらい火山灰が積もると思いますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	積もらないと思う	329	7.3
2	2cm未満だと思う	1104	24.7
3	2cm以上10cm未満だと思う	1247	27.8
4	10cm以上30cm未満だと思う	384	8.6
5	30cm以上だと思う	170	3.8
6	わからない	1244	27.8

(SA) 【調査1】 Q16 もし、富士山の噴火が起こった場合、自宅や住んでいるマンションは積もった火山灰によって被害を受けると考えますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	自宅や住んでいるマンションが全壊すると思う	61	1.4
2	自宅や住んでいるマンションの一部が壊れると思う	237	5.3
3	自宅やマンションは壊れないが、自宅に火山灰が積もると思う	2029	45.3
4	自宅やマンションに火山灰は積もらないが、周囲には積もると思う	521	11.6
5	火山灰による被害はないと思う	652	14.6
6	わからない	978	21.8

(SA) 【調査1】 Q17 もし、富士山の噴火が起こった場合、自宅周辺の電気・ガス・水道・道路・交通機関などの被害はどのぐらいの間、続くと思いますか。それぞれについて、一つずつお答えください。

【調査1】 Q17項目	電気	%	全体	被害はないと思う	当日中には復旧すると思う	2~3日くらいで復旧すると思う	1週間くらいで復旧すると思う	2週間くらいで復旧すると思う	1か月以上復旧できないと思う
			実数	実数	実数	実数	実数	実数	
【調査1】 Q17項目1	電気	100.0	4478	705	459	697	558	295	343
【調査1】 Q17項目2	水道	100.0	4478	725	425	687	543	296	374
【調査1】 Q17項目3	ガス	100.0	4478	777	444	656	536	296	329
【調査1】 Q17項目4	通信・インターネット	100.0	4478	677	499	690	557	274	338
【調査1】 Q17項目5	道路	100.0	4478	565	361	592	615	410	535
【調査1】 Q17項目6	鉄道	100.0	4478	470	389	659	628	410	515
【調査1】 Q17項目7	バス	100.0	4478	556	399	642	619	388	458

(SA) 【調査1】 Q18. もし、富士山の噴火が起こった場合、通勤・通学先ではどのぐらい火山灰が積もると思いますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	積もらないと思う	424	9.5
2	2cm未満だと思う	968	21.6
3	2cm以上10cm未満だと思う	1046	23.4
4	10cm以上30cm未満だと思う	309	6.9
5	30cm以上だと思う	137	3.1
6	わからない	1594	35.6

(SA) 【調査1】 Q19. もし、富士山の噴火が起こった場合、通勤・通学先は積もった火山灰によって被害を受けると思いますか。

		実数	%
全体		3508	100.0
1	通勤・通学先が全壊すると思う	77	2.2
2	通勤・通学先の一部が壊れると思う	210	6.0
3	通勤・通学先は壊れないが、通勤・通学先に火山灰が積もると思う	1340	38.2
4	通勤・通学先に火山灰は積もらないが、周囲には積もると思う	348	9.9
5	火山灰による被害はないと思う	586	16.7
6	わからない	947	27.0

(MA) 【調査1】 Q20. あなたは、富士山噴火に備えて、どのようなことが必要と思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	いざとなったら家を離れて避難すること	1347	30.1
2	食料品などを備蓄すること	2927	65.4
3	非常持出品をまとめておくこと	2191	48.9
4	懐中電灯を用意しておくこと	2041	45.6
5	ゴーグルやマスクを用意しておくこと	2020	45.1
6	その他	33	0.7
7	富士山噴火に備える必要はないと思う	793	17.7

(FA) 【調査1】 Q20_6FA. あなたは、富士山噴火に備えて、どのようなことが必要と思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		33	100.0
回答者数		33	100.0

(SA) 【調査1】 Q21. あなたは、過去、富士山で大規模な噴火があったことを知っていますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	知っている	2940	65.7
2	知らない	1538	34.3

(SA) 【調査1】 Q22. あなたは、過去、富士山が噴火して、東京近辺で大規模な降灰があったことは知っていますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	知っている	2091	46.7
2	知らない	2387	53.3

(SA) 【調査1】 Q23. あなたが住む地域は、富士山火山防災マップ（ハザードマップ）で火山灰がどの程度積もると想定されていますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	積もらない	148	3.3
2	2cm未満	344	7.7
3	2cm以上10cm未満	509	11.4
4	10cm以上30cm未満	164	3.7
5	30cm以上	65	1.5
6	具体的な数値はわからないが積もる地域だと思う	1015	22.7
7	わからない	2233	49.9

(SA) 【調査1】 Q24. あなたの通勤・通学先の地域は、富士山火山防災マップ（ハザードマップ）で火山灰がどの程度積もると想定されていますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	積もらない	160	3.6
2	2cm未満	345	7.7
3	2cm以上10cm未満	457	10.2
4	10cm以上30cm未満	146	3.3
5	30cm以上	68	1.5
6	具体的な数値はわからないが積もる地域だと思う	877	19.6
7	わからない	2425	54.2

(SA) 【調査1】 Q25. あなたは、富士山噴火の被害想定に関することについて、以下のことを知っていますか。あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

		全体	知っている	知らない	意味がよくわからない	
【調査1】 Q25項目1	内閣府が、富士山が噴火した際の被害想定を発表していること	%	100.0	26.6	67.0	6.4
		実数	4478	1191	3002	285
【調査1】 Q25項目2	富士山周辺域では、富士山の噴火に備えて防災対策が考えられていること	%	100.0	28.7	64.7	6.6
		実数	4478	1286	2896	296
【調査1】 Q25項目3	富士山のハザードマップが作成されていること	%	100.0	25.8	67.5	6.7
		実数	4478	1154	3022	302
【調査1】 Q25項目4	富士山には、噴火警戒レベル（火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と防災機関や住民等の「とるべき防災対応」を5段階に区分して発表する指標）が導入されていること	%	100.0	21.9	71.2	6.9
		実数	4478	980	3187	311
【調査1】 Q25項目5	富士山では、火山防災協議会（関係防災機関による被害想定、防災対策、ハザードマップの作成などを推進するための組織）が設置されていること	%	100.0	17.3	75.3	7.3
		実数	4478	775	3374	329
【調査1】 Q25項目6	富士山は大規模な降灰が特徴的であること	%	100.0	31.2	61.9	6.9
		実数	4478	1397	2770	311
【調査1】 Q25項目7	現在、内閣府で富士山の首都圏への大規模降灰を想定して対策を考えていること	%	100.0	19.8	73.3	6.9
		実数	4478	887	3283	308
【調査1】 Q25項目8	富士山はどこから噴火するかがよくわかってない（噴火口が特定されていない）こと	%	100.0	22.6	69.9	7.5
		実数	4478	1014	3129	335
【調査1】 Q25項目9	東京都のほとんどの地域で2cm以上の降灰が予想されていること	%	100.0	23.8	69.2	7.0
		実数	4478	1066	3098	314
【調査1】 Q25項目10	降灰により、生活支障が広範囲・長期に及び、社会的混乱が発生すると考えられていること	%	100.0	32.4	60.9	6.7
		実数	4478	1449	2728	301

(MA) 【調査1】 Q26. あなたは、上記の富士山の降灰の被害想定を讀んで、どう思いましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		4410	100.0
1	被害想定を知って、非常に不安な気持ちになった	1451	32.9
2	想定は大きすぎだと思う	123	2.8
3	想定を真に受けられないようにしている	181	4.1
4	想定を上回る被害が起こると思う	936	21.2
5	降灰するかもしれないが、何をしたらいいのかわからない	1731	39.3
6	降灰するかもしれないが、大きな被害はないと思っている	557	12.6
7	実際には降灰するとは思っていない	123	2.8
8	降灰のことは考えたくもない	643	14.6

(SA) 【調査1】 Q80. あなたはこれまでに大きな災害を経験したことはありますか。それぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	避難したことがある	避難はしていないが、経験したことがある	経験したことはない	
【調査1】 Q60項目1	地震	%	100.0	8.0	47.5	44.6
		実数	4478	357	2126	1995
【調査1】 Q60項目2	津波	%	100.0	1.5	5.4	93.0
		実数	4478	69	244	4165
【調査1】 Q60項目3	火山噴火	%	100.0	1.2	5.1	93.7
		実数	4478	53	227	4198
【調査1】 Q60項目4	水害	%	100.0	2.6	10.3	87.1
		実数	4478	117	459	3902

(SA) 【調査2】 Q1. あなたは、以下の火山に関する用語を知っていますか。あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

			全体	知っている	言葉は知っているが、明確にイメージできない	知らない
【調査2】 01項目1	火山性地震	%	100.0	36.4	31.7	31.8
		実数	4478	1631	1421	1426
【調査2】 01項目2	火山性微動	%	100.0	26.1	30.0	43.9
		実数	4478	1170	1344	1964
【調査2】 01項目3	低周波地震	%	100.0	15.9	29.5	54.6
		実数	4478	712	1323	2443
【調査2】 01項目4	噴石	%	100.0	52.3	28.4	19.3
		実数	4478	2343	1272	863
【調査2】 01項目5	降灰	%	100.0	56.4	24.8	18.8
		実数	4478	2527	1110	841
【調査2】 01項目6	火砕流	%	100.0	49.2	29.0	21.8
		実数	4478	2205	1298	975
【調査2】 01項目7	溶岩流	%	100.0	51.7	28.5	19.8
		実数	4478	2315	1278	885
【調査2】 01項目8	泥流	%	100.0	38.9	29.3	31.8
		実数	4478	1743	1311	1424
【調査2】 01項目9	土石流	%	100.0	56.4	29.9	13.8
		実数	4478	2524	1338	616
【調査2】 01項目10	空振	%	100.0	13.7	21.3	64.9
		実数	4478	615	956	2907

(MA) 【調査2】 Q2. あなたは、富士山噴火に関する情報に接しましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	テレビで、富士山が噴火した場合の首都圏への影響に関する情報を見た	1906	42.6
2	テレビで、富士山噴火に関する情報を見た	1082	24.2
3	インターネットで、富士山が噴火した場合の首都圏への影響に関する情報を見た	842	18.8
4	インターネットで富士山噴火に関する情報を見た	575	12.8
5	新聞や雑誌で、富士山が噴火した場合の首都圏への影響に関する情報を見た	369	8.2
6	新聞や雑誌で富士山噴火に関する情報を見た	241	5.4
7	富士山ハザードマップを見た	253	5.6
8	その他	11	0.2
9	富士山噴火に関する情報には接していない	1766	39.4

(FA) 【調査2】 Q2_8FA. あなたは、富士山噴火に関する情報に接しましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

(省略)

(SA) 【調査2】 Q3. もし、富士山の噴火が起こった場合、あなたはまず、どうしますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	今まで通りの生活を送る	386	8.6
2	まずは家にとどまり状況を見る	3327	74.3
3	家から速くに離れる	208	4.6
4	避難所に行く	557	12.4

(SA) 【調査2】 Q4. もし、富士山の噴火が起こって、降灰で家での生活が困難になり、長期的に避難せざるを得なくなった場合、まず避難するとしたらあなたはどこに避難しますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	近所の避難所	2024	45.2
2	東京都内	1166	26.0
3	東京都以外	1288	28.8

(MA) 【調査2】 Q4a. その避難先は具体的に、どこですか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		1288	100.0
1	祖父母、父母、子どもなどの家	569	44.2
2	親戚の家	207	16.1
3	知人・友人の家	78	6.1
4	受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設	233	18.1
5	ホテル・旅館	215	16.7
6	車中泊	80	6.2
7	その他	40	3.1
8	わからない	268	20.8

(FA) 【調査2】 Q4a_7FA. その避難先は具体的に、どこですか。あてはまるものをすべて選んでください。

(省略)

(SA) 【調査2】 Q4bo1_1. 祖父母、父母、子どもなどの家

(SA) 【調査2】 Q4bo1_2. 親戚の家

(SA) 【調査2】 Q4bo1_3. 知人・友人の家

(SA) 【調査2】 Q4bo1_4. 受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設

(SA) 【調査2】 Q4bo1_5. ホテル・旅館

(SA) 【調査2】 Q4bo1_6. 車中泊

(SA) 【調査2】 Q4bo1_7. その他

(省略 ※本文中に記載)

(MA) 【調査2】 Q4c. そこまでの避難の手段は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		1020	100.0
1	自家用車	427	41.9
2	電車・新幹線	533	52.3
3	バス・タクシー	105	10.3
4	原付・バイク	6	0.6
5	自転車	33	3.2
6	徒歩	84	8.2
7	飛行機	142	13.9
8	その他	6	0.6
9	わからない	127	12.5

(FA) 【調査2】 Q4c_8FA. そこまでの避難の手段は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

(省略)

(MA) 【調査2】 Q4d. その後、都内に食料などの物資が入らなくなった場合、避難するとしたらあなたはどこに避難しますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		3190	100.0
1	祖父母、父母、子どもなどの家	771	24.2
2	親戚の家	401	12.6
3	知人・友人の家	218	6.8
4	受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設	978	30.7
5	ホテル・旅館	412	12.9
6	車中泊	217	6.8
7	その他	23	0.7
8	わからない	1206	37.8

(FA) 【調査2】 Q4d_7FA. その後、都内に食料などの物資が入らなくなった場合、避難するとしたらあなたはどこに避難しますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(省略)

(SA) 【調査2】 Q4eo1_1. 祖父母、父母、子どもなどの家

(SA) 【調査2】 Q4eo1_2. 親戚の家

(SA) 【調査2】 Q4eo1_3. 知人・友人の家

(SA) 【調査2】 Q4eo1_4. 受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設

(SA) 【調査2】 Q4eo1_5. ホテル・旅館

(SA) 【調査2】 Q4eo1_6. 車中泊

(SA) 【調査2】 Q4eo1_7. その他

(省略 ※本文中に記載)

(MA) 【調査2】 Q4f. そこまでの避難の手段は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		1984	100.0
1	自家用車	803	40.5
2	電車・新幹線	811	40.9
3	バス・タクシー	273	13.8
4	原付・バイク	58	2.9
5	自転車	263	13.3
6	徒歩	700	35.3
7	飛行機	131	6.6
8	その他	5	0.3
9	わからない	209	10.5

(FA) 【調査2】 Q4f_8FA. そこまでの避難の手段は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

(省略)

(SA) 【調査2】 Q5. 内閣府は、富士山の噴火による降灰への備えとして、住民等の基本的な考え方として以下を示しています。あなたはこのことを知っていますか。あてはまるものを、それぞれ一つずつ選んでください。

		全体	知っている	知らない	よくわからない	
【調査2】 Q5項目1	平時には、地震対策と合わせて?料・?等の備蓄を確保するとともに、予め避難先を検討しておくこと	%	100.0	52.8	28.8	18.4
		実数	4478	2365	1290	823
【調査2】 Q5項目2	噴火前の地震等、火山活動発時に、地域を離れることが可能な人は、降灰が想定される範囲外への避難が必要になる場合もあること	%	100.0	34.6	42.8	22.5
		実数	4478	1551	1918	1009
【調査2】 Q5項目3	噴火期間中は、降灰範囲に残っている人は備蓄を活用して自宅・職場等に留まる必要があること	%	100.0	32.9	44.3	22.8
		実数	4478	1474	1984	1020
【調査2】 Q5項目4	噴火後、必要に応じて、利用可能な交通機関を使って降灰範囲外へ避難が必要になる場合もあること	%	100.0	33.4	43.8	22.8
		実数	4478	1496	1962	1020

(MA) 【調査2】 Q6. あなたは、火山灰による被害について以下のことを知っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		4136	100.0
1	火山灰は、細かいほど離れたところまで広がること	2032	49.1
2	細かい火山灰は、こびりつきやすく、雨が降ると固まりやすいこと	1925	46.5
3	火山灰により、呼吸器系や目の症状等を引き起こす場合があること	2325	56.2
4	木造家屋が火山灰の重みで倒壊する可能性があること	1238	29.9
5	火山灰が積もると、土石流や河川のはん蓋が発生する場合があること	1193	28.8
6	鉄道は、わずかの降灰で地上路線の運行が停止すること	1345	32.5
7	自動車は降灰が多い場合に、道路上の火山灰や視界低下によって通行不能となる場合もあること	1590	38.4
8	物資が輸送できなくなったり、店舗が営業できなくなることにより、生活物資の入手ができなくなる場合があること	1732	41.9
9	火山灰により側溝や下水道管の目詰まりを生じる場合があること	1319	31.9
10	火山灰により水質が悪くなり、浄水施設の処理能力を超えることで、水道水が飲めなくなる場合があること	1549	37.5

(MA) 【調査2】 Q7. 1707年に発生した富士山の噴火(富士山宝永噴火)について以下のことを知っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		3600	100.0
1	富士山宝永噴火は、南海トラフで発生した宝永地震と同じ年に発生したこと	696	19.3
2	噴火は16日間続いたこと	360	10.0
3	火山灰の重みで家屋の倒壊が発生したこと	551	15.3
4	東京近郊でも、灰が数cm積もったところがあること	1787	49.6
5	噴火中、東京近郊にも降灰が続いていたこと	1402	38.9
6	噴火中、東京近郊では降灰によって、昼間でも暗くなる状況になったこと	1091	30.3
7	降灰によって農作物に被害が発生したこと	1365	37.9
8	火山灰が降り積もった後の雨で、土石流や河川のはん蓋が続いたこと	402	11.2
9	噴火したその日のうちに、東京近郊でも火山灰が降り始めたこと	640	17.8
10	内閣府が作成した富士山噴火の被害想定は、富士山宝永噴火をもとに算出されていること	689	19.1

(MA) 【調査2】 Q8. あなたは、富士山噴火による火山灰への備えを行っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	火山灰を除去するためのスコップ等を用意している	257	5.7
2	火山灰を吸い込まないように、防塵マスクを用意している	298	6.7
3	火山灰が目に入らないように、ゴーグルを用意している	250	5.6
4	数日間外出できなくなるかもしれないので、食料品を備蓄している	798	17.8
5	その他	3	0.1
6	火山灰への備えは特に行っていない	3367	75.2

(FA) 【調査2】 Q8_SFA. あなたは、富士山噴火による火山灰への備えを行っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(省略)

(MA) 【調査2】 Q9. あなたは、富士山噴火による火山灰への備えとして、以下のことを知っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		3135	100.0
1	下水が詰まらないように、雨どいや排水管を排水口から外す	412	13.1
2	濡ったタオルをドアのすき間や通気口に置く	513	16.4
3	目への刺激を防ぐため、コンタクトレンズをはずしてゴーグルまたは眼鏡を着用する	1021	32.6
4	自動車の故障の原因になり、道路を滑りやすくなるため、自動車の運転は可能な限り避ける	696	22.2
5	フロントガラスに傷がつくので、乾いた火山灰がある時はワイパーは使用しない	881	28.1
6	火山灰を除去する場合は、火山灰が巻き上げられないように湿らせる	462	14.7
7	火山灰が空気中に漂ってしまうので、圧縮空気の吹き付けや乾いた布での拭き掃除は避ける	405	12.9
8	火山灰は滑りやすいので、はしごや屋根に登るときは細心の注意を払い、強力命綱を使用する	384	12.2
9	飲み水に火山灰が入っていても、味が悪くなければ、たいていの場合は、健康には悪影響を及ぼさない	636	20.3